# 守貞謾稿

後集 巻三
後集 巻四

別圖

寄別
30
15

寄別
13
29/30
41

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

守貞謾稿後集巻之三

車之名数品々

尼曽車

唐庇車

羊公車

横柿毛車ハ太上天皇以下四位以上通用之也其製蒲葵ノ葉ヲ屋上ニ覆ヒ葺シ蒲葵ハ其葉桜棕ニ似テ蒲葵ヨリ小ニシテ短ク古ハ其文字ヲ知ラズ横棕櫚ノ葉ヲ以テ葺ク故用ユルヲ実ノ棕櫚ノ葉ニハ非ズ毛ハ葺ノ意ナリ

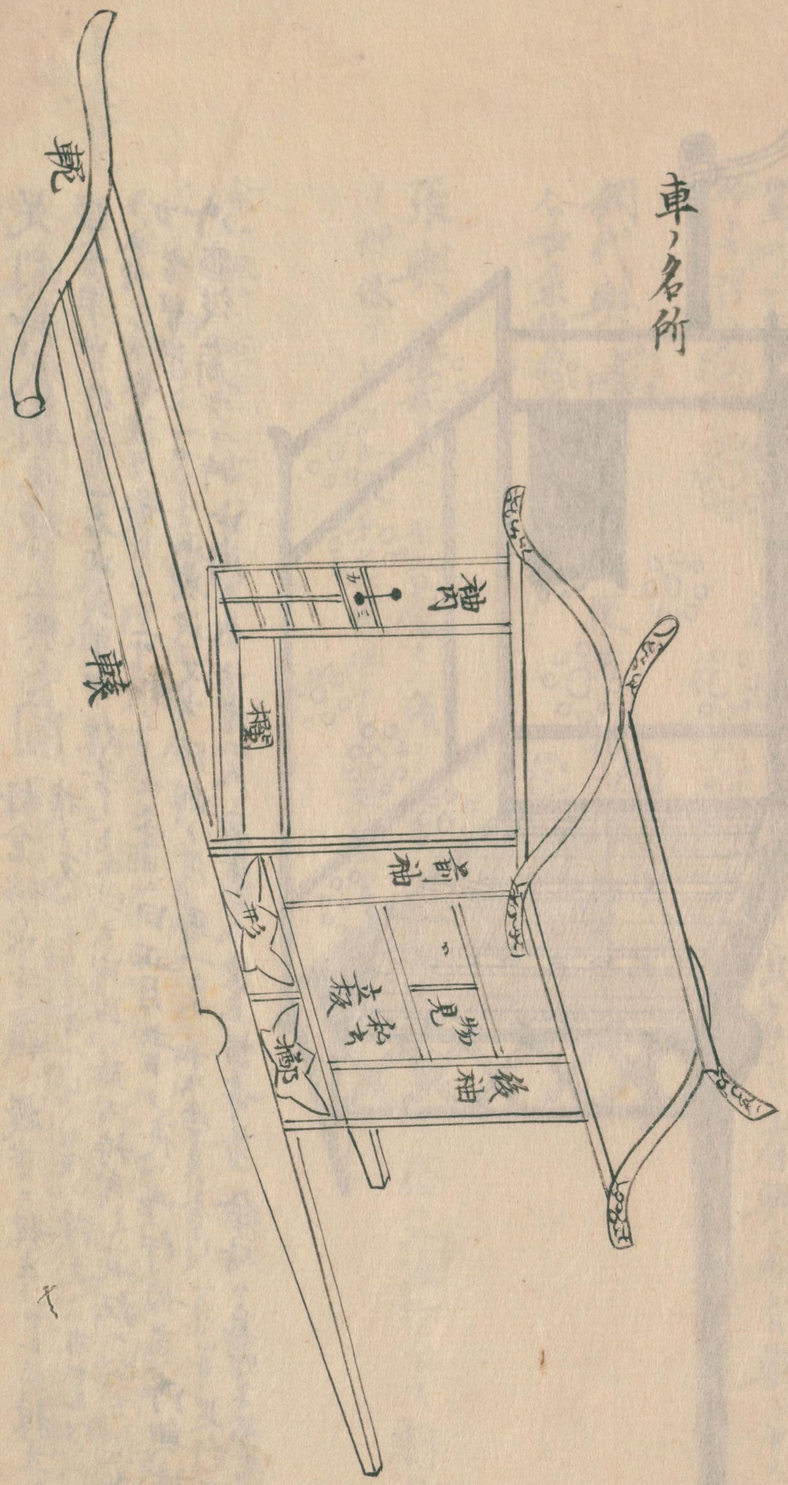
網代車　簾本宝ニ青竹ヲ密ニ割リ割ラアヒロ張全世乗物ノ上極ク八葉車

喜田川季荘尾張藩学員誌

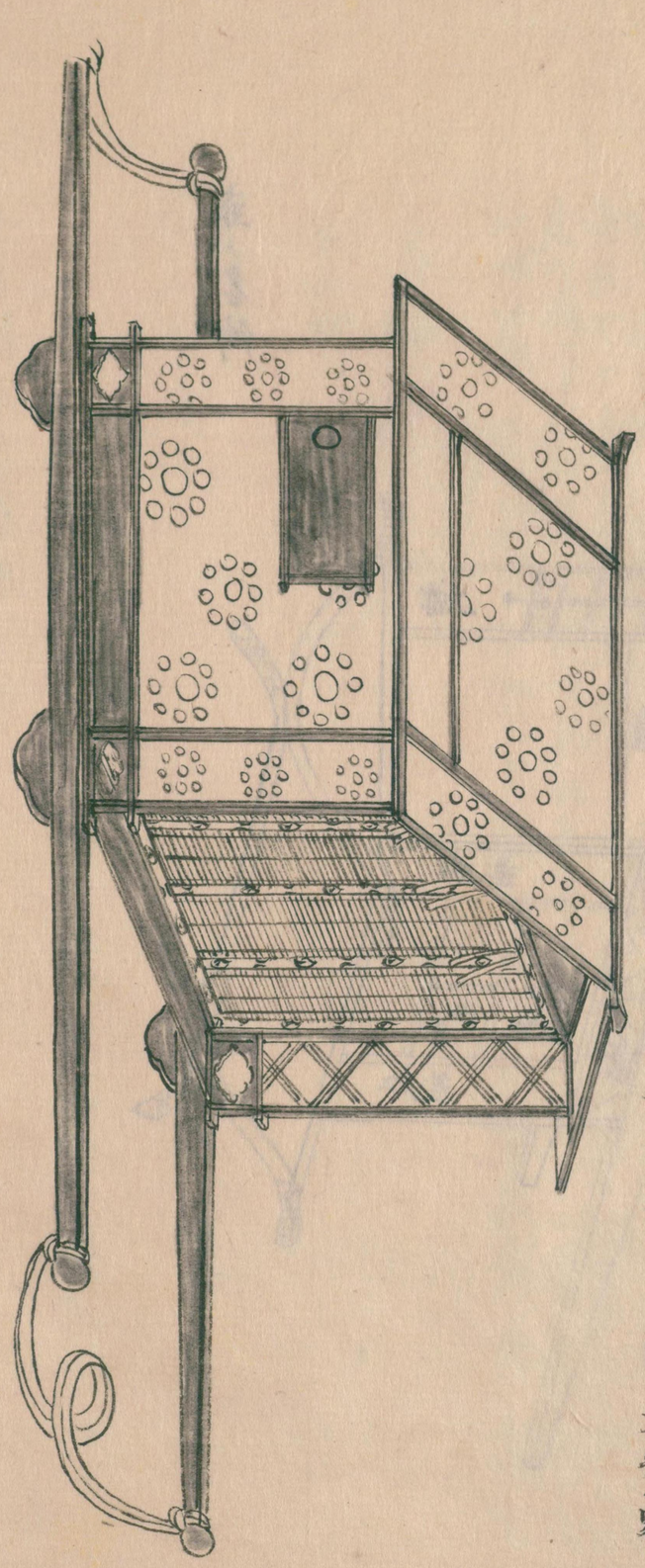
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

# 車ノ名所




国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



足利持氏朝臣棟上輿之圖　鎌倉瑞泉寺藏　摸本二棟ニトアレ共棟ニハ屋根ノ反リタルヲ云ナレバ是ハ棟ニハ非サルベシ

鎌倉年中行事一名成氏年中行事トモ云ヒ成氏ニ非ズ持氏ナリ其証ハ公方様御寺ト云條ニ長春院ヲ載サルヲ可知ト云ヒ書ニ曰正月吉日ノ夜ハ御行始ト云ヒ御輿棟之力者即申シトアリ此輿於又ハ庫劍ノ役所一疋私ト云古良今川一色等足利一門ニ非ス持氏ナリ其証ハ公方様御寺御輿棟之御所ニハ御

棟立輿トハ前ノ車名所劇ノ如ク屋ノ反リタルヲ
ノ如ク棟上ケ武ハ四方共ニ棟立ノ下シ

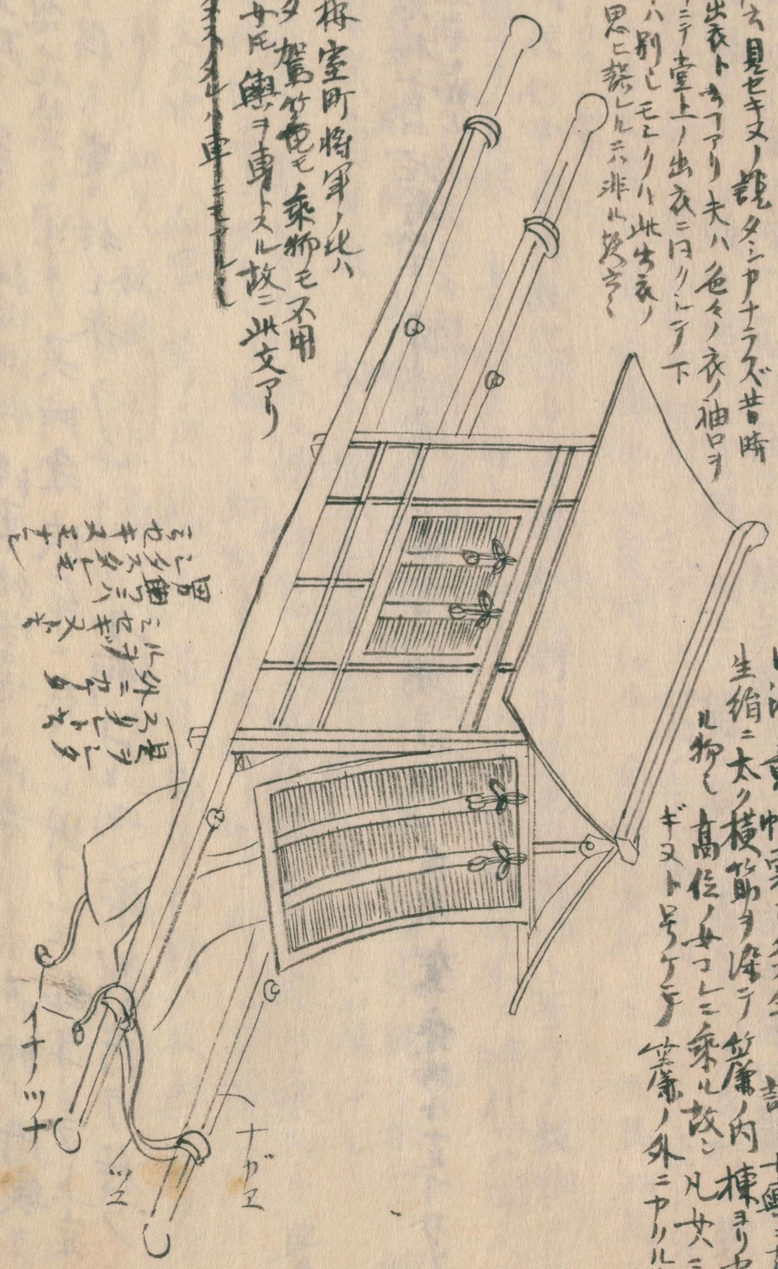
武雑記ニ所載女輿之画

此画百書ニハアルヘカラズ
神注ノ時画セシナルベシ

日書ニ於路次輿ニ行合ヤハ
但通悪リ引ケバ路次ノヨキカタヘ
打ノケテ下馬アルベシ又棟ニモヨルベシ

補注ニ見セキ又ノ説ダンナラズ昔時
車ニ出衣トキコアリ夫ハ色々ノ衣ノ袖口ヲ
出スコニテ堂上ノ出衣ニ引クルニテ下
簾トハ別ノモノリ此出衣ノ
コヲ思ヒ誤レルニ非ル歟ヲ

日注ノ意帷裳ニタスダレト訓シ女輿ニカル
生絹ニ太ノ横筋ヲ挿テ簾ノ内棟ヨリカケ
ル物ヽ高位ノ女コレニ乗ル故ニ凡女ニモ
ギヌトヨケテ簾ノ外ニカクルヨシ



黒棒室町将軍ノ比ハ
未タ駕竹竿モ乗物モ不用
男女共輿ヲ専トスル故ニ此文アリ

棟立輿トハ前ノ車名所劇ノ如ク屋ノ反リタルヲ
ノ如ク棟上ケ武ハ四方共ニ棟立ノ下シ棟立ニスル物ハ持氏ノ輿歟

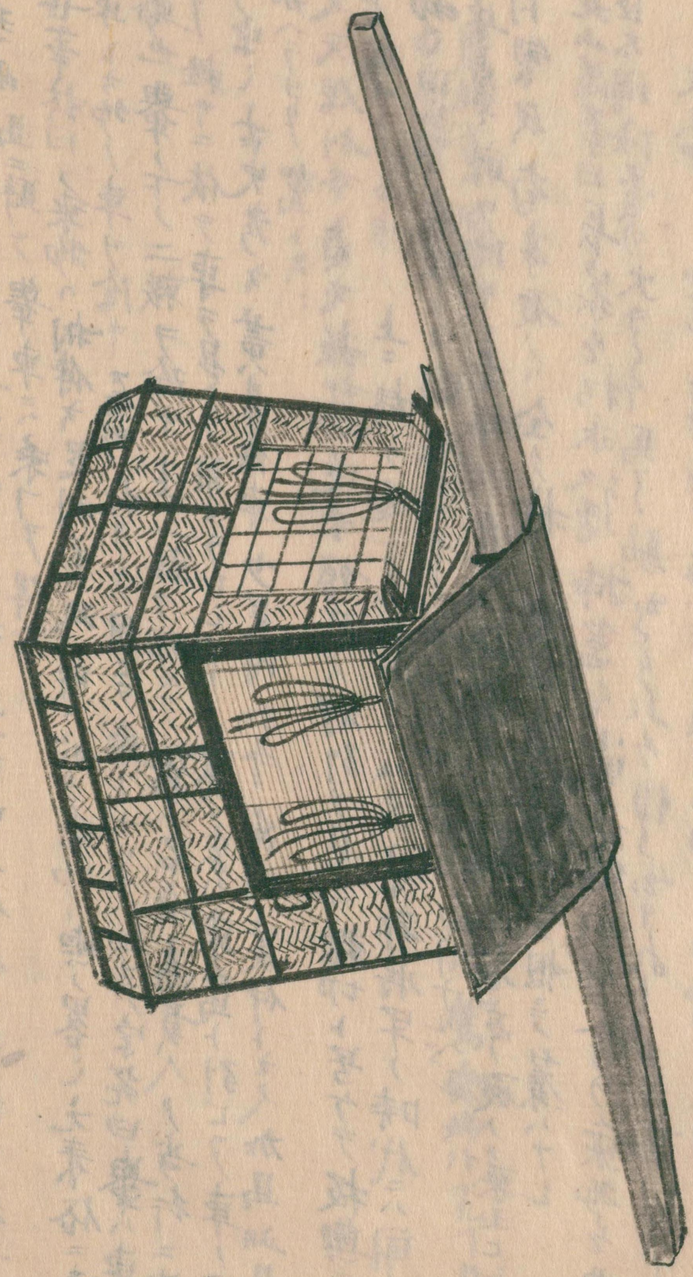
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

文政一年　仙洞御所治東備学寺ニ御幸アリ其時ノ御輿ヲ
葱花輦ト唱リ其時余坡華ニ在リシ時ナレハ幼年ニテ上京
ヲ得ズ遂ニ拝シ奉ラサリシ如何ナル形ニヤ後考ヲ待ツ

愚按ニ尼眉以下ノ車ヲ輿トシ中昔ハ輿ヲ用ヒ乗物トナルナルヘシ

乗物　リヨノハ元来輿車ノ惣名シ昔ハ文武官人僧俗ニ免許ヲ得サル人ハ
馬ニ騎ヲ輦車ニ乗ルヲ得ズ
世事談曰　乗物ハ輿ノ略シ元来俗ニ佛所
車トスル物ノ車ヲ除キ屋形計リヲ用ヒテ四方ヨリ舁ヨリ始ル乗物ト云ヒテ輿トナレリ
輪也　輦ノ下ノ二轅ヲ除キ上ニ一轅ヲ用ヒテ四方ヨリ舁ヨリ始ル乗物ト云ヒテ輿トナレリ
駕ト名ク舟ト高貴人ノ歩行ニ輿ヲ
駕ノ字ハ車ノ屋形ヲ除キ上ニ一轅ヲ用ヒテ車ヲ見ヨリ始ル乗物ト云ヒテ輿トナレリ
ノ字シ古史考ニ黄帝作車　少昊時加牛　禹時奚仲ト云ヘリ加馬　此馬ヲ
加ヘヲヨリ駕トスト
又天保利本　貞丈雑記曰　近来婚礼ノ時行列ヲ見ルニ鞍切ト号ケテ板輿ニテ
下ニ轅ヲ入ル屋形ノ上ニ棒ヲ通ストアル物ヲ上ニ棒ヲ通ストアル物ヲ
物ヲ旧記ニ塵取ト云ル無ニ入タリ今ノ
事ニ轅ノ後ヲ上ニ棒ヲ付ケ板輿ト云ハ即チ菊ノ葉ノ形ニ似タルヨリ
日記ニ菊車　屋ノハ全リ檜ノ素板ニ
北山随筆曰　長家ヲ始メ永久ノ後迄摂家ヲ小舟木ニ造ル
臣太閤筑紫ノ大キ〳〵ク馬ニ騎ガ〳〵ク
文久中　和宮　幕ノ附ニ嫁シ玉フ頃
頃ヨリ也ヨリ板輿ト云ハ尊キ人ノ用ユルベシ一轅屋上ヨリ

# 乗物之畫



乗物　将軍家ハ溜塗惣網代棒黒塗
　　宗尋公薨御ノ後其加篤及ビ快気ノ増長寺大僧正ノ賜ノ故ニ芝大僧正ハ駕将軍ノ如シ
日光法親王モ溜塗惣網代棒黒塗ナレ前ニフリラモアリ此形他ニ多シ
　　追考見ヨ
御緒家ハ位階ヲ擇ズ惣網代ニ棒黒塗シ

官層モ惣網代ニ棒黒塗ナレ溜塗ハ無シ朱漆ヲ専トス武ハ黄ハ漆ヲ給フ故ニ今世芝ノ大名モ道中ニハ惣網代溜塗棒黒漆ヲ許サズ凡テ江戸用ヨリ道中用ハ上ノ表ノ人モ旅中腰黒ヲ用ヒ江戸ニテハ黒ヲ用フル者アレ江戸ニテハ黒武家ハ江戸用ハ打上ケヲ上トス打上ケ上ケ腰加州前田家或ハ納言ニ任ズルアリ城内下乗モ陸薩ニ越タリ駕腰アゴ皇網代

次ニ常体ノ腰網代　アゴ口ノ上ヲ黒塗ニス
次ニ腰黒　腰ハ板ノ表ヲ黒ヌリニス蓋押ビナ下ヨリ一間モ二間ノ物モアリ一重ニ重トモ
次ニ惣ビ座巻キノ下トス蓋其制ニ見ノ着物アリ

アゴ口　簾簾　正常シ

二ツ重ノ腰アゴ口腰黒等二三層トモ

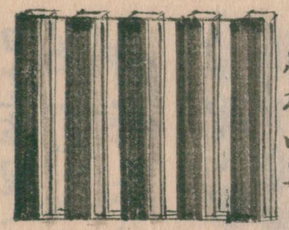
武家在府用打上以下並ニ棒素ヨリ唯松平越中守ノミ黒塗ノ棒ヲ用フ是先年日光御社参ノ時故有テ免許ヲ又腰ヲ胡粉塗ニシテ腰白ナル物アリ腰黒ノ次ナル故或ハ制外敷未考

乗物ハ素黒ニ檜棒ヒ

其他家ニヨリ一ツ引ナスモアリ明石ノ松平左兵衛督ハ押縁朱漆ノ竹

総ノ製家ニ有ハ押様生昔竹ノ

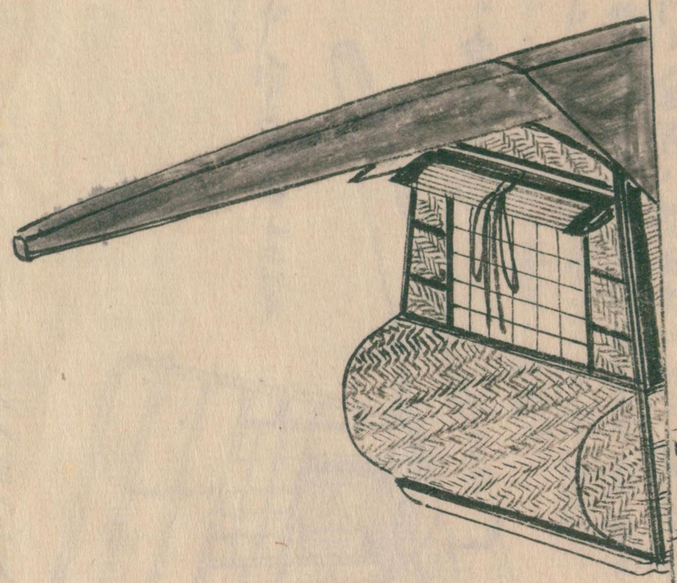
簾黒萩ヲ用フ



夢想窓ノ如キ家居及其庭ニモ中ニ許ノ板ヲ接ニ並ベナツノ内ノ板内面ニヤリ明クヘハ表裏板相違ヨリ明ル表裏ノ区ニス

将軍家宮家御簾中ニ有ル表裏ノ義ニ於テハ詳ナラス親王及伸像又宮僧ノ駕友トモ加駕上下氏ニ用ル

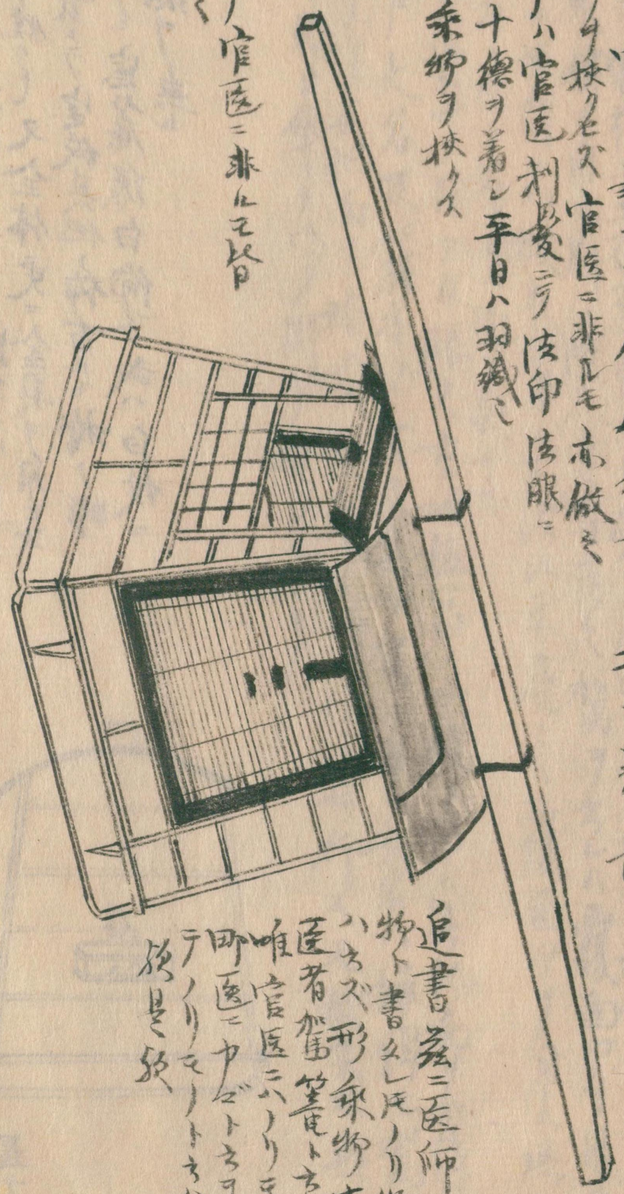
幕府外ニ見ル唯武家ニ上下氏ニ将軍ニ許ル家格ニ依テ駕前ニ出ル者ハ駕ノ四天ニ是ヲ用ルニヨリ定白板夢想窓



輪王寺法親王所用　即日光宮ニ東叡山ヲ兼帯ニ玉ヒ常ハ寛ニ住玉ノ東叡山ノ上野ノ宮様ヨウニ上野ヲ上ノミヤト称ニ非ス

乗物俗ニ長棒（ナガボウ）ト云（イフ）ハ轎夫四人ニテ舁（カキ）ヒ本トス蓋豪格ヨリ手カロリト号テ十餘人或ハ五六人ヲ供（ツレ）ス偏舁（カタカキ）スルモアリ又ハ四夫ノ二乗（ノリ）ヒ轎夫ヲ畧（リャク）シテ二人ニテ舁モアリ如乗物モ同ジ

江戸醫師乗物ノ差巻（サシマキ）ナシ疋（ヒキ）聊（イサヽ）カ小形ニテ上特ニ狭ク唯軽キヲ上旨トス又窓ハ帯ノ大サナシ疋（ヒキ）笠覆（カサオヽヒ）ヲ長クスルハ上流ヲ好ムシ京坂医駕上狭（セマ）キヲ以（モッテ）物（モノ）ニ異（コト）ナルコトナシ其故ハ大内ノ官医ハ諸太夫ニ任（ニン）シ省髪（ハブキ）ナレハ上下ヲ着ス故ニ乗物ヲ挟（セバ）ク仕（ツク）リ又ハ官医ニ非（アラ）ルモ赤徹（アカスケ）ヲ江戸ハ官医利髪（リハツ）ニテ法印法眼ニ任（ニン）シ十徳ヲ着（キ）シ平日ハ羽織（ハオリ）ヲ故ニ乗物ヲ挟（セバ）ク仕（ツク）リ又

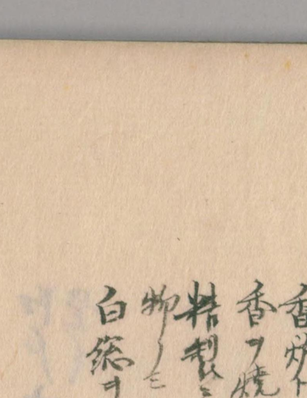


江戸官医ニ非（アラ）ルヲ皆（ミナ）カ

追書（オヒカキ）茲（コヽ）ニ医師乗物ト書（カ）ケル疋（ヒキ）ノリ物トハ云（イヘ）ズ形（カタチ）乗物ナル疋（ヒキ）医者駕籠（カゴ）ト云（イヒ）唯官医ニハノリモノ即医ニヤゴトキヲ惣（ソウ）テノリモノトハ非（ヒ）ス故（ユエ）ニ是（コレ）ヲ挙（アゲ）ス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

大坂ノ市民ハ上巳式ノ日檜ヲ乗スルニ興ヲ用ヒズ
皆ヲ素檜作リ屋根モ素檜板ニテ漆セザルヲ
血ヲ背ノ外面ニ小棚ヲ架シ素檜筥ヲ
香炉トシ通香ト名ケテ路次ノ間妻ニ
香ヲ焼リシ又全体更ニ金具ヲ用ヒズ
特製ニテ定紋其他飾有ルモ檜ノ肌
物ノニ窓簾縁白倫子式ハ白綾ニ
白綸ヲ無シ



轝ヲ背面ニ向ヒ檜ヲ乗スル故ニ昔ニ香炉ヲ置ケリ

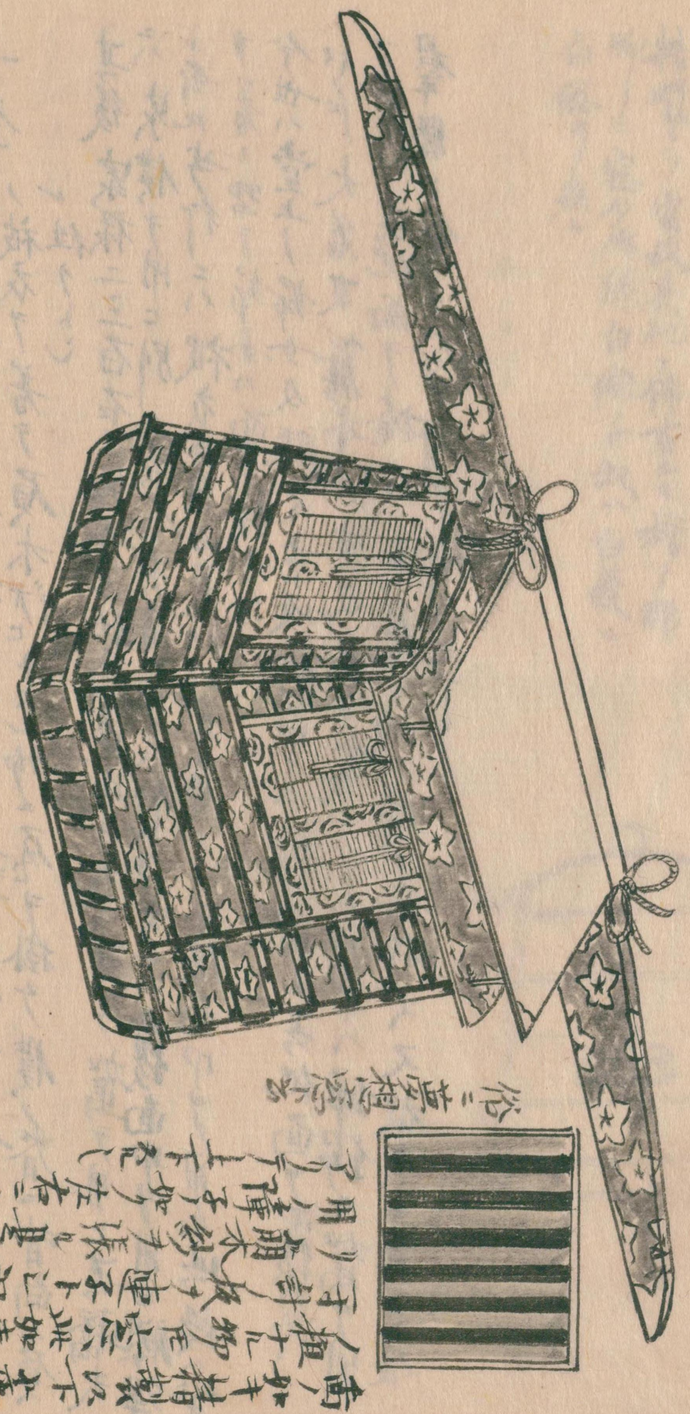
座巻ノ乗物ニ形常体ニ
押縁ハ通常ノ如ク竹ナリ

女駕 式書曰元亀比ハ高禄ノ武家モ
ノ被衣ヲ着テ履木オヒト云ル物ヲ
ル往クトシ

其後家禄二三石ノ婦女モ他出遠近
ニハ家僕ヲ用ヒ別ニ陸尺ト云者無ク駕
ト雖ドモ歩行ニハ被衣ヲ用ヒ戸外ヘ出ル
ヲ着ル物ヲ婦女ハ面ノ覆サズ
今世ハ壹人ノ婦女ハ勝又高坂極富ノ女
江戸大名及旗本ノ室及息女ハ駕ヲ用
ルアリ其他面ヲ掩ハズ壹息ハ時ニ臨テ歩行又又被衣ヲ無ク唯
羣勝日傘ヲ用ヒテ掩フモアリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

# 女乗物番



女乗物ニモ數種アリ惣黒漆ニ金ノ時僉ヲ家上下又ハ定文ニ唐草又ハ唐草ノニヲモ描キ紋所ヲチラシ梺門劃シ押縁黒ニ滅金ノ金具ヲ打右ノ製ナル物ニハ日覆捏ヲ排シ両端ヲ黒角ノ如ク屋根向ヲ透ス窓簾ノ縁赤地錦タル物モアレド多クハ右番ノ如ク両端ト屋根トニ緋縅シ

図ニ記ス右ノ如キ乗物ノ時ハ長刀伴 供笠雨覆 傘伴 供笠雨覆 傘伴ハ定紋ヲ高低ノ如ク段々ニ乗物ノ上ヨリ朱丸折傘一本ハ一個或ハ二個ヲサシカケシム傘轆轤ノ折ニ錦ノ袋伴ヲ釣ルヲモ見タリ

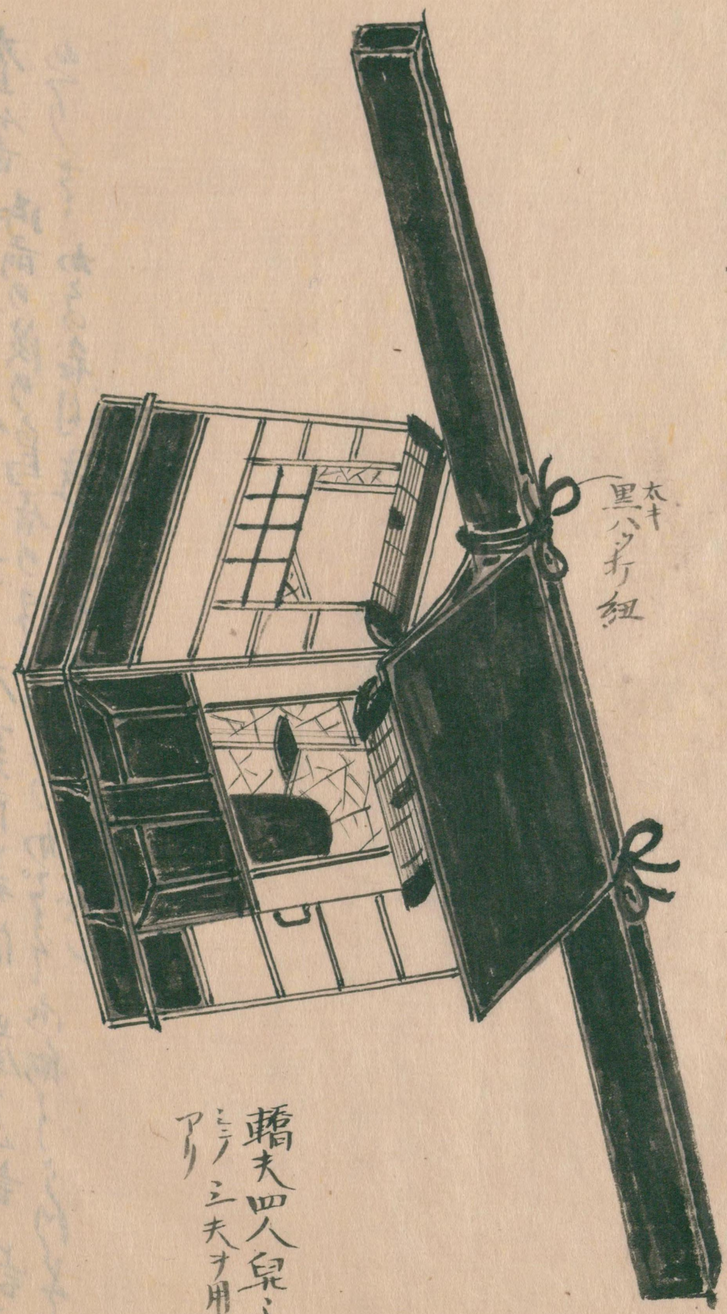
次ニ天鵞絨毫シ紺唐草紋天鵞絨ヲ以テ全体ヲ包ミ滅金ノ金具、簾ヘリ赤地錦ノ日覆ヲ透サス、屋根ニ直ニ置リ次ニ綱代朱漆又リ押縁真他ニ前ニ同制唯一等粗製シ

次ニ全体ヲ青漆押縁黒銅具及鉄ヲ以テ故ニ鉄ヲ式ハ押ブチ鉄ノミヲテ別ニ銅具ナキモアリ次ニ塵ヲ全体ヲ塗押縁黒銅鉄ヲ以テ此ニ種ノ白ヲシ蓋錦及ビ塗製ニ精粗アルノミ青漆スリトゴヲ以テ車ヲ日覆ヲシ

黒漆二時繪ハ高位及ビ大名ノ室用ヒ其未精粗アリ天鷲絨巻小梅ノ大名ヲ用ヒ大禄籏本ノ室事ヲ用ヒ大国大名ノ上輩ノ女房ヲ用ヒ幕府日宗室及上中輩ノ女房用ヒ青漆蒔ハ下輩ノ用ヒ其未精粗アリ天鷲絨巻小梅ノ大名以下ノ室ヲ私行潜行共権門駕ヒ国ヲ天鵞絨巻ニ乗ル人ハ長戸俗ハ狭管ヲ用ヒ金紋俗ハ無ヒガ多シ葢婚姻ノ時ハ狭管ヲ用ヒ貴人及ビ上輩ニハ潜行

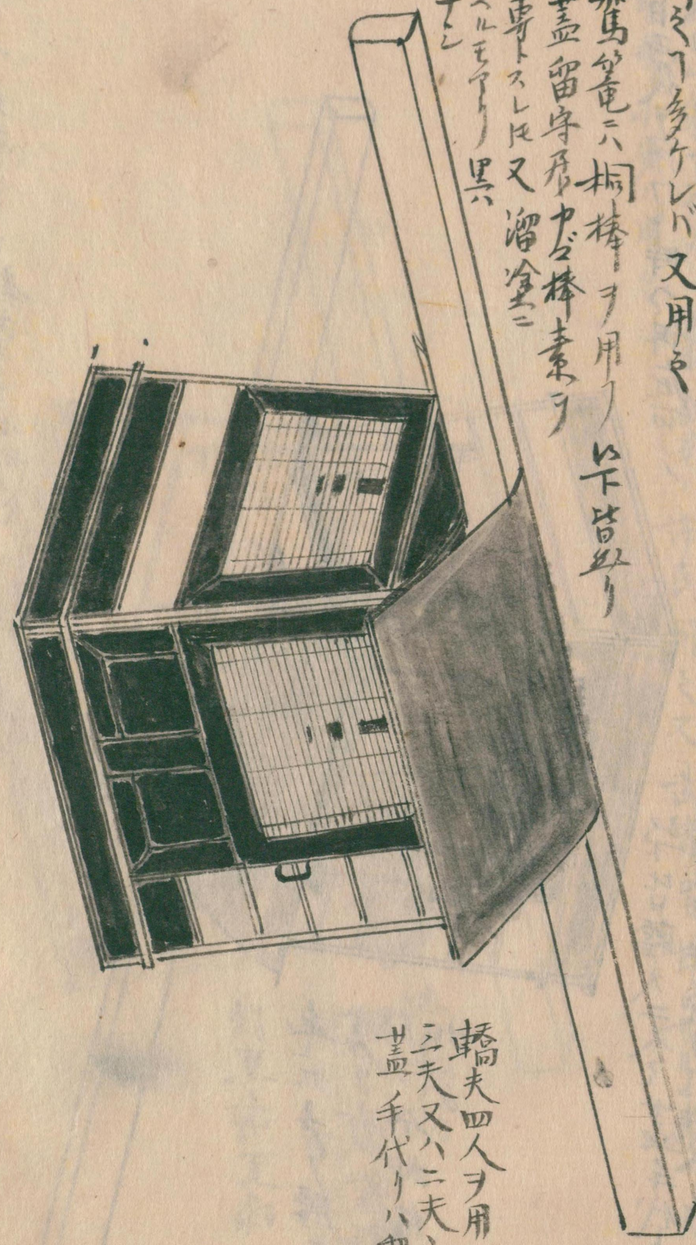
駕籠ヲカゴト訓ズ　今川貞世ガ　鹿苑院義満ノ巌島詣ノ記ニ
御前ノ渡ノ鳥居ノはしらより　かごをそすてゝ
かちの者ニ　院より此御前より　有ナルベシ

御忍駕籠　潜行俗ニオシノヒトモ大名モ潜行ノ時用ヒ堂モ階ニハ用ヒ男用ト異ナルナシ　隠居ナドモ用ヒ全体ヒノキ其大サ乗物ト均シリ又皆精細ニシ棒両端細ナラズ黒塗シカゴモ腰黒シ日覆黒ラモヤ




轎夫四人ニ非レバ外事ヲ勤ル故ニ専ラ乗ラ用ヒ堂ニ非レバ又用ヒ

留守居駕　留守居ハ武家ノ役名重臣ニ非レバ外事ヲ勤ル故ニ専ラ乗ラ用ヒ堂ニ非レバ又用ヒ



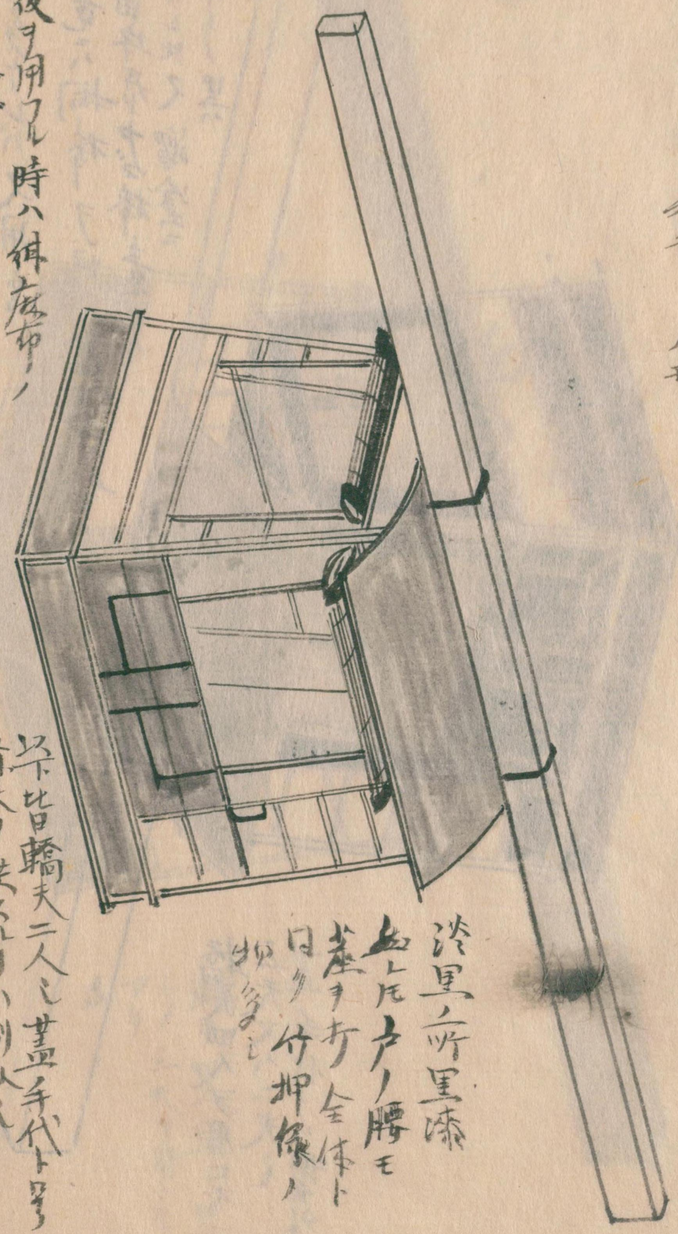
駕籠ニハ桐棒ヲ用ヒ其上皆塗リ蓋留守居ハ木棒素ヲ専トスレドモ又溜塗ニスルモアリ黒ナシ

轎夫四人ヲ用ヒ又ハ二夫ニシ蓋手代リハ御免外ナシ

日覆ニハ紺木綿ヲ専トス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

ケンモンカゴ　献物駕又権門駕大名ノ家来自駕ナキ者主用ニテ他家ニ往リニ歩行ニテハカナハヌ時ハ主人ヨリノ貸駕篭モ権門ニ非ス恐ラクハ幕府献上物ノ時乗ルモノテ面当居駕ヨリハ粗製ニテ小形ナリ

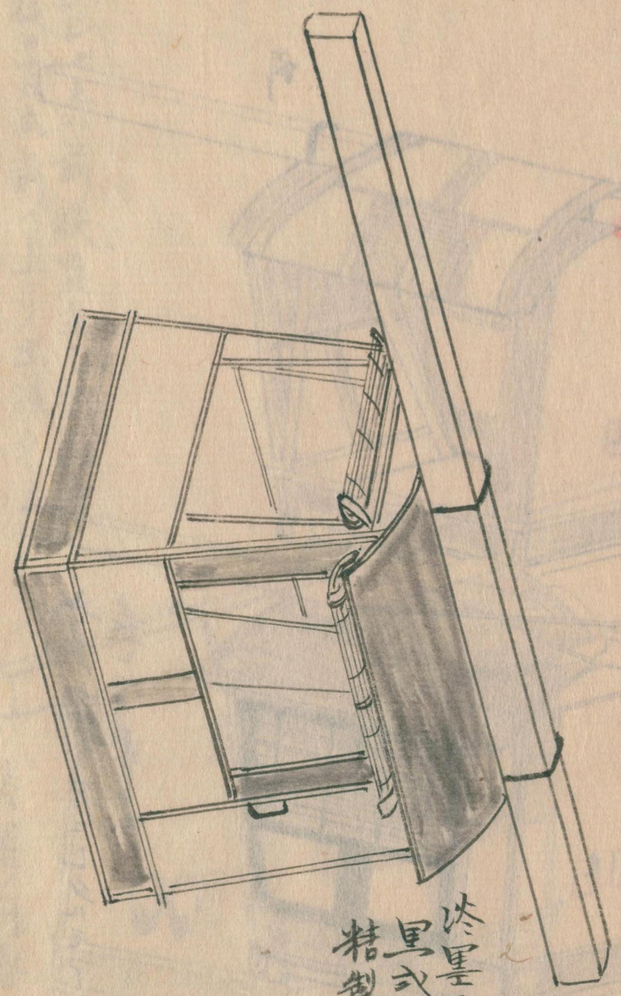


淡墨ノ所黒漆ヲ施ス

日覆ヲ用ル時ハ供廻ノヘトリヲザシ

左右皆轎夫二人ヲ置手代トオボシキ者夫ヲ供スルヲハ制外ナリ

ハウセンジ駕篭　法仙寺ナドノ字ヲ附民間ニ用ル民間用ハ是ヲ非トハ乗ラヌカタシ豪富若ハ市民用ヲ又武家ニモ用ヒサルニ非ス大名家来ノ小身ハ用ヒ

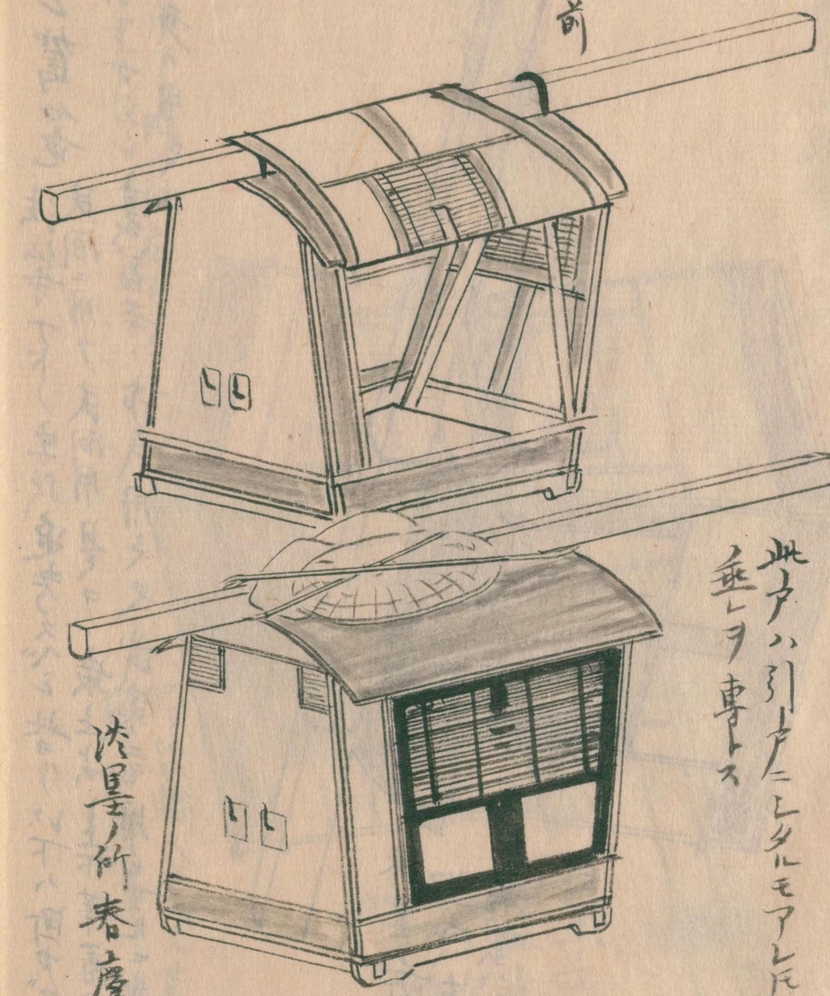


淡墨ノ所黒貳ハ春慶ヌリ精製ハ蒔代塗

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

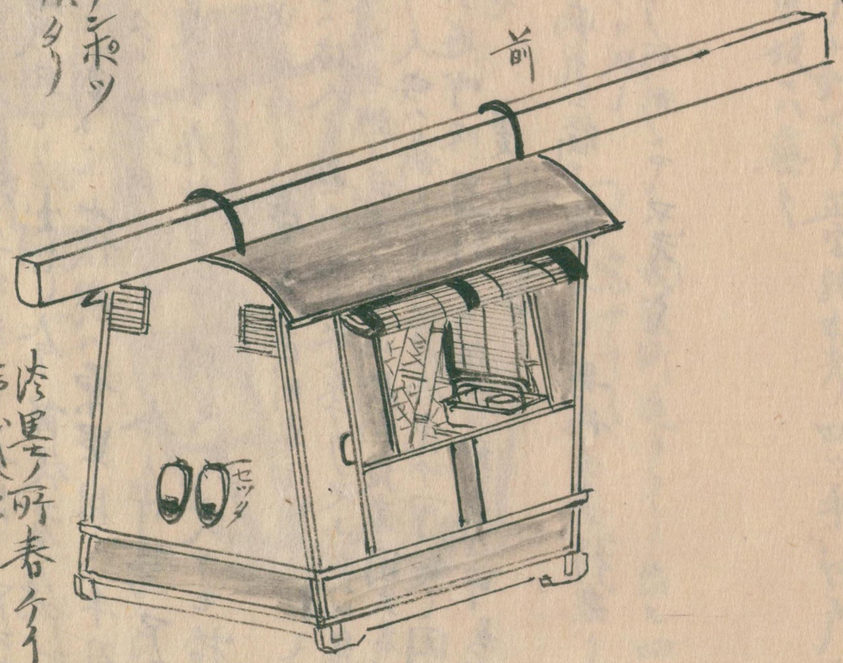
京四ツ駕籠　江戸ニテノ名目シ
ハウセンシノ次ハアンポツ　アンポツノ次ニ京四ツヽシ




此ノ内引戸ニシタルモアレドモ稀ニテ
垂レヲ専トス

淡墨ノ所春慶ヌリ

アンポツ　是モ江戸ノ名目シ
京坂アンダトモ
京四ツ駕上シ




ホウセンヨリ上ハ前後直立シアンポツ
ヨリ下ハ後ロ直立前ハ上ニテ出張タリ

淡墨ノ所春代塗シ又ハ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

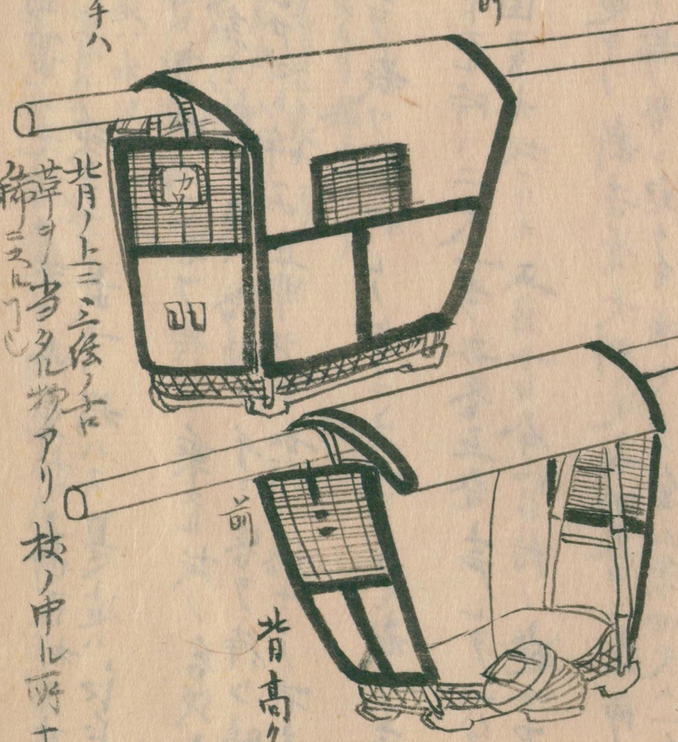
ガラス使用

筬輿、三人一組ニ而舁筬輿即籃輿、又腰輿ヲ筬輿ヲアヤタト訓セリ、アヤタトハ再訛テアンポントモ云ヒ世事談ニ竹駕ヲゴト訓ス、筬輿ヨリ出ヅル後輿ハ京軍用ニ手負ナド乗セ、今ノ竹駕アヤタトハ今ノ竹駕アンポントモ云ヒ大サヲ格別ニシ、八島ヲ嗣信ヲ後輿ニタルシ軍用ノアヤタトハ異ナルベシ、竹ヲ以テ籠ニ編テ竹ヲ曲テ蔓トシ九竹ヲ以テ搖ラシ

或書曰古ハ平士及ビ民間ニ駕ニ乗者無ク一般人皆ニ不可乗ト云ヘリ、古来ハ依人ノ外無用ノ昵近家老諸卒ニ及ビ支乗ト誡ニ乱ルヽ至リ也、於向後者国大名以下一門ノ歴々ニ非ル医陰両道ニハ六十以上ノ人或ハ病人并ニ婦人ノ家中ニ至テハ再主人擬人格ニ遂ニ吟味一可許ト云ヘリ、但公家出家ノ衆ハ兼テ制也、慶長十九年卒負ヲ今世事ヲ乗ト雖モ病気ニ縁テ乗ルニ非ズ皆病者ニ痛ホノヽ沢シ、是慶長元用ヒシ駕ハ今製ノ何形ニヤ不考ヘシ

# 輿駕篇

或書ニ輿ヲヨッテト訓セリ、専用ノカゴシ、京坂ニハ無ク、




吉原町辻ヨリヨリ出シ四ツ手カゴニ窓ナキモノ、

四ツ手ハ宿ヤゴニ至ノ間小商ニ過ギリ今少シ大形ニ両ヤアリ異ナル蓋四ツ手ハ京四ツ手ノ一級小形ニシ北月ノ上ニ二径ノ小穴アリ棒ノ中ヘ所々ニ当テ物アリ棒ノ中ヘ所々ニ当テ蓋

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

世事談日江戸ノ辻駕籠ハ元禄ノ末ニ声色
人女ト病人ニ限リ若キ者ハ乗ラズ武士ハ
十ニシテ
導貞揚ルニ辻駕籠トカハ路上ニ客ヲ待テ乗ル故ノ名称今ハ諸所ニ
駕籠屋アレド亦行人多キ処ニハ夜ハ路傍ニ
意ニ従リニ役ヤゴヤンヤゴヤト呼ブ是那ヤゴ
アリ
今世四ツ手ノ数三万ヨリ数フベシ何ヒノ年ニ元禄ノ数ヲ廃止アリシ
故ト考スベシ
四ツ手ヲ急速ヲ事ラトスル時ハ二夫一歩毎各互発声シテ(ハアレ)ホラ
トさし俗ニ掛声トシ因ニ大坂ニテハ五月十日今宮詣リ遊ヤゴノモ一歩
毎ニ来イホヒト掛声ス
四ツ手賃銭日本橋辺ヨリ新吉原大門迄大略金二朱即銭ニテ八百
文ヲリシ三夫四夫ニテ踰賛シ皃ヲモ准ラテ金二朱四夫ハ一分シ

## 轎夫

京坂市民常ニ中ヨリ用ルヲ稀ナルヲ以テ
駕籠屋ト称ヘ是ノミヲ業トスル家ハ唯
諸遊里ニ在ルノミ中ニモ島内八幡節ト
定ムル所ハ一町ノ間駕籠屋ノミ住ス
市中ニ散在シテ駕籠ヲ皃ル者多シト
雖モ唯業ヲ事トスル者ニ非ズ是ハ得意ノ医家等ノ
又嘉永新撰ハスルシ嘉市中ニモ十ノ七ノミノ業ニ非ズ是ハ得意ノ医家等ノ者シ

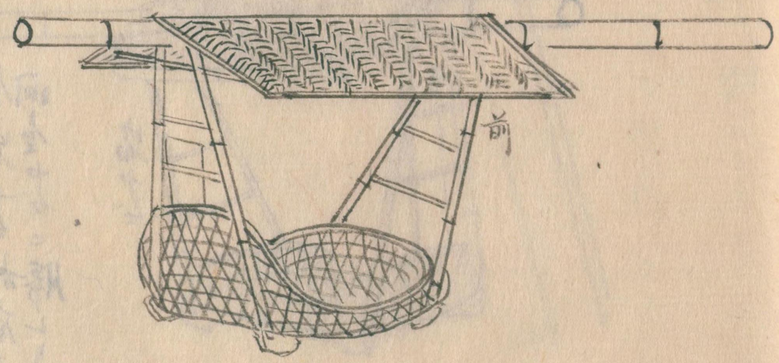
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

# 京坂垂駕籠

京坂市民専用ニシテ江戸ノ四ツ手ノ如シ因テ江戸ハ言及其他郷老ニ路遠キカ故ニ往リニ東ヲ四ツ手ヲ用ト其度キヲ肩トス江戸ノ地廣キヲ以テ地廣ニシテ大坂ハ地廣ヤラズ花街柳巷ニ路近ヲ以テ往リニカコヲ用フル人無キ帰路ノミ用ヒハ雨天或ハ深更又ハ酔酊ナレバ故ニ皃ヒニ甚タ静ヲ貴ヒ習キ夫鉢ニ水ヲ盛リ乗テ警キヲ又小田原提灯モ江戸用ヲ小形ニテ駕籠ノ棒端ノ釣

山駕籠　箱根山ニテ専用ノカゴニ底四形故ニ自ラ廣ノ山路ヲ乗テ脚ヲ痛メズ屋根アリ

此カゴ江戸ヨリ駿州路ノ間ニ用ヒ京坂ハ元ヨリ東海道モ西ハ不用ヒ皆宿カゴ

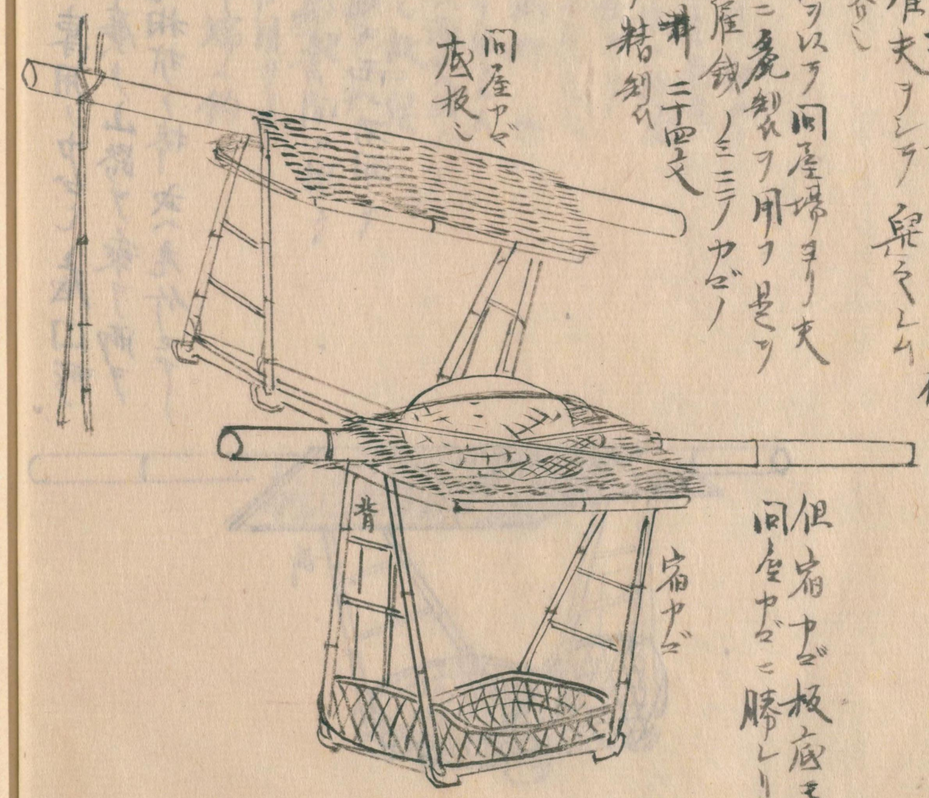


国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

宿駕籠　宿毎ニアリ　俗ニ駄ト云　自駕ヲ携ザル旅人ハ用ユ　俗ニ駄賃ト云　駅家ノ雇夫ヲシテ舁セシム　故ニ雲助ト云　中略

又所用人馬賃銭帳ヲ以テ問屋場ヨリ夫ヲ役ス　旅客ハ特ニ冥賀ヲ用ヲ是ヲ問屋ト云ヒ人夫ノ雇銭ノミニテカゴノ料ヲ取ラズ　若駕籠二十四文ヨリ下ルヿナシ　ヲ用ヲ




但宿ヤゴ板底ヲアレド自ラ問屋ヤゴニ勝レリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

輿丁 鞘尻

鞘尻ハ 紺紬家ニハ 駕輿丁ト云 武家ニハ陸尺ト云 民間ニハ 駕籠舁ト云シ 駕輿丁頭ヲ統ブル 中形深木綿六人計ナルヲ四ツ折ハカリニ 沿テマトヘリ 其名ヲ追書スベシ 武家ニ不用ヘ 将軍家 帝ニハ 善連川ハ陸尺 黒紬羽折ヲ着シ 服紗ヲ佩ツ

乗物車ヲ四夫ニテ舁リ 小舟ハ二夫 或ハ七八 五六人ヲ供シ 四夫梅替ニテ舁ク 龕ハ二夫ニテモ舁ク 龕夫ヲ千代リト云

権門駕籠 四夫

留守居ナドハ二四夫 献物ナドハ二四夫 ハウセンジンハ下ニ 並ニ二夫ニテ舁モ有ヘ

市中往来 留守居ナドハ上大名 息抜ヲ用ヒズ 以下ハ用ヘ 葛籠行ニハ 高貴ノ乗物ト雖ニ 息抜ヲ用ヒ又ハ竹抜シ ハウセンジンハ上ハ息抜ヲ不ス 以下ハ竹抜シ

葛籠 二夫ヲ供シテ二夫完梅替

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

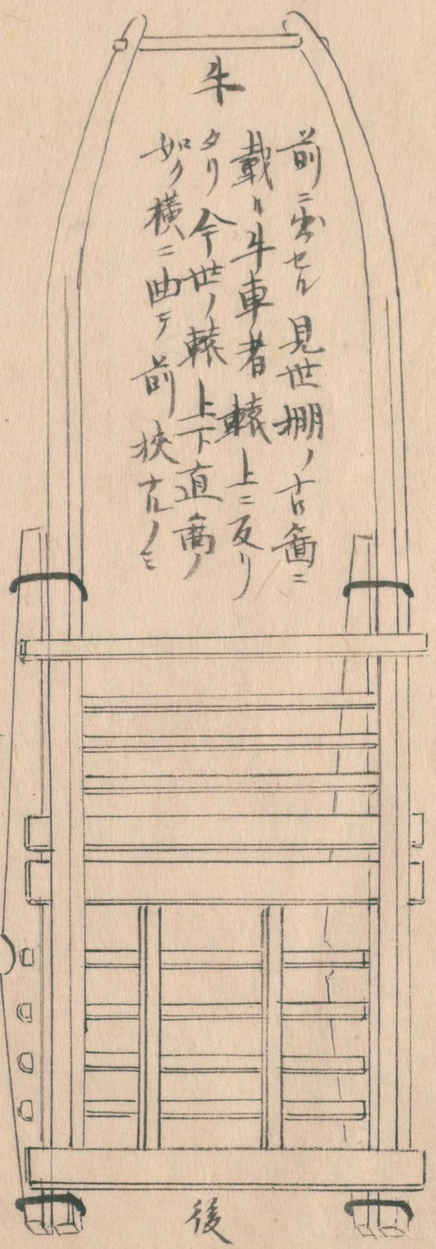
ガラス使用

長短

古之車法
貞觀七年九月太政官下知弾正臺左右京職及近國禁材
木短枕及定載車法曰步板簀子楣樓。量薄去延暦十五年
初立制法年月遷改久忘格意今依其車荷者須楣樓三十
二枚步板八枚簀子十枚以此為定勝示山口及津乆明令
知之

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

牛車畚　今世用ふ　京師　江戸　尾ノ名古屋　駿ノ府中　共ニ




江戸牛車昔ハ無ク一年中大城
地ヨリ給ヒ其後高輪ノ口大城戸外ニ
牛町ニ地ヲ近ク今ニ至リ無リ

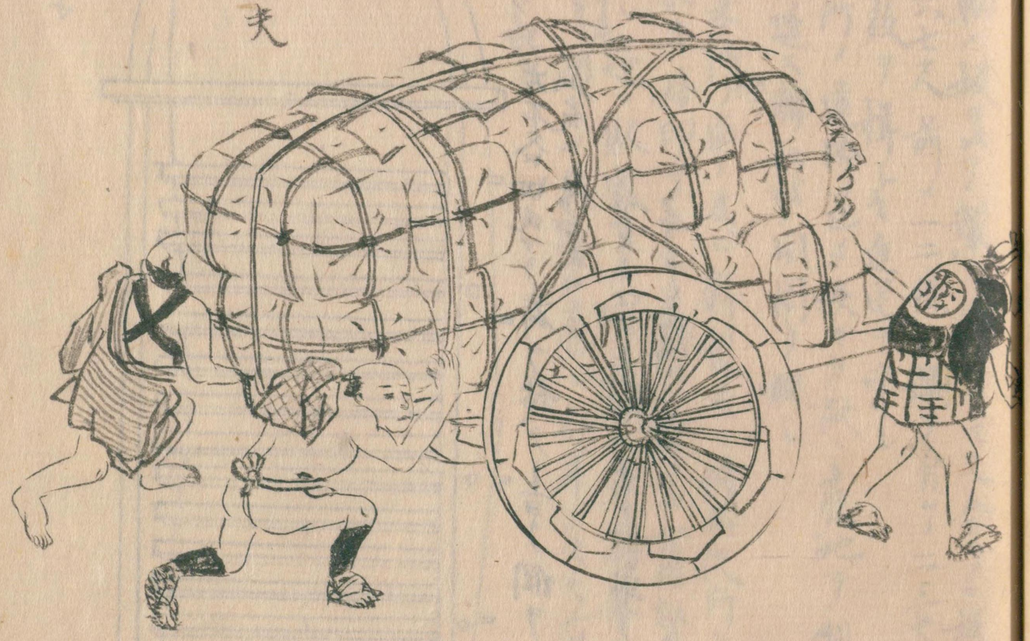
車輪ハ次ノ大八車ト日制ヲ羽
七牧矢ヒ一本ナリ

江戸代八車畚

畚ノ如ノ異ニテ遣ルヲヨテシトス
弐ニ夫ニテモ遣ヒ軽キ時ハ
一夫ニテモ曳ケル実ハ替シ

世事談曰　寛文年中江戸ニテ
造ル人八人ノ代ヲスルヲ
代八ト号ク今ハ大八ト書リ
其頃、営中ニテ戯言ニテノ
人ヲシテ牛ノ如ノナラシムル

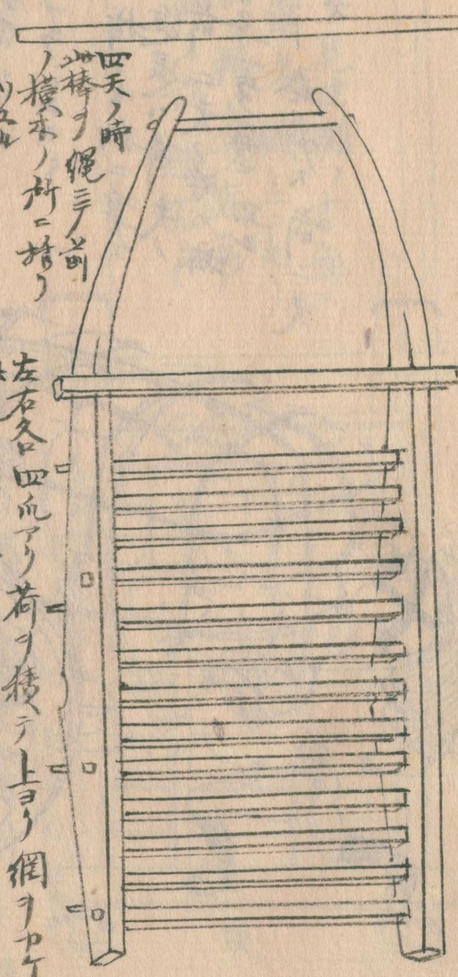
此車前ヲ揖トス船ニ準ス
後ヲ左右退ハ前夫ノ
左ル所トス前ニ夫ノ時ハ掛
声トキヲ各互一歩毎ニ足
ホンニ〳〵ト発声ス前一夫
ハ発声セズ



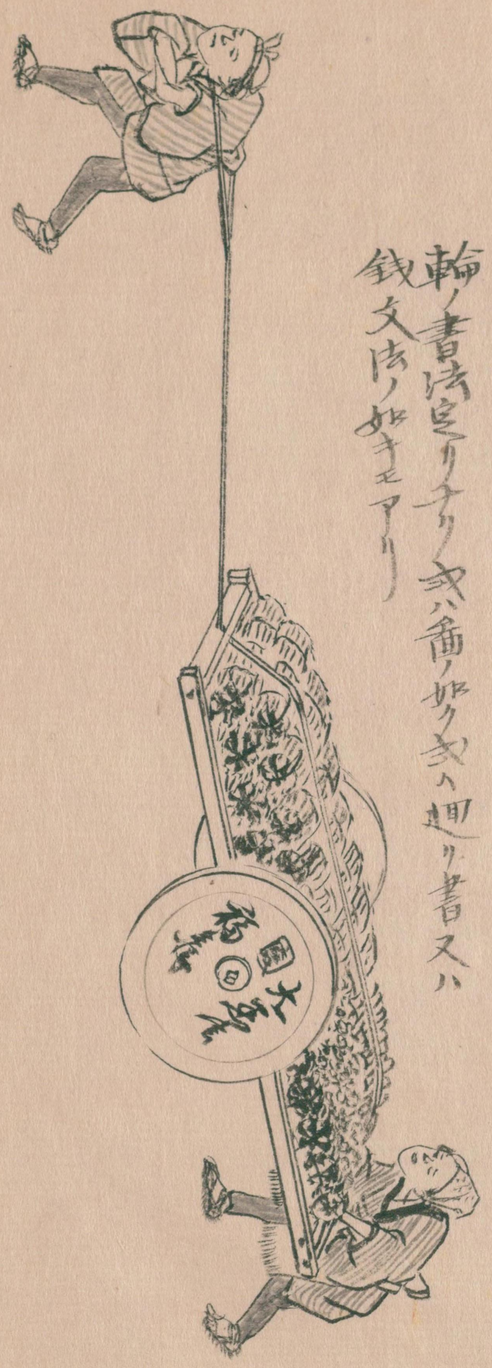
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

大坂軽車　格ニベカラムマトスヘシ　輪ハ板ヲ張ル
長サ物二間餘短物六七尺前ノ一二條ノ綱ヲ脊ケ二三尺曳ク
脊ニモ一二尺在ヲ押遣ル此車ハ後ヲ揮上ル
幅モ二尺餘代八車ヨリ狭シ是ハ当所ノ道路ヲ
量メ狭キカ故ニ慮地ヲ制セシメシ
箕ヲ打枝割板ヲ打シ板間四五分ヲ透ス輪打枝
同周リ樫シ
文政中　私ニ製シテヲ禁シ後来所持
リテ用ユルヲ許ス新十日車ハ二商ノ処ヲ格印ヲ
中運輸ノ諸物此車ヲ用ユルヲ以テ駅家公用繁ク市
金二朱計リ　金一両餘ニ至リ蒼老逆ニ駅
輪ヲ要スル用ヒザル所ナリ駅家ヨリ官ニ請ヲ車二両春秋二季ニ
格印　寺守リ　大坂改

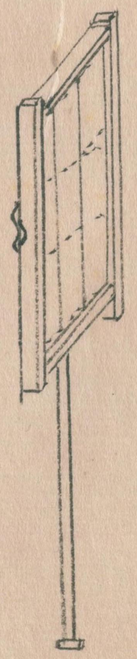
代八車箕子




国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



輪ノ書法宮リ子リ或ハ番ノ如ク或ハ
銭文法ノ如キモアリ



西晉店ニ用フル例ノ簀子縁リ周リニ縁チ廻リ
又後ニ棒ヲ出シ込ミ押建ル
輪左ニ同ジ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

喜田川季荘 尾張臣 守貞誌

**扶箱** 世事談曰 扶箱ハ信長公ノ時ヨリ始ル 昔ハ扶竹トテ竹ヲ割テ衣類ヲ扶ム 扶竹ノ代リトナレバ 扶箱ト名ケリ 又書ノ扶箱ニテ行李ニ比ハ 秀吉公ノ時 布施宮内ト云人始テ為ルトゾ

又或曰 十石ハ衣服等 上刺裏ニ網ヲ携ヲ慶竹ヲ以テ作ル 是ヲ扶ト号ケリ 竹ヲ割カタノ是ニ衣類ヲ扶ム 故ニ扶ト云フルニ雨露及塵埃ニ触ルヽ故ニ又慶ヲ以造ル 扶箱ト号ル 寛永ノ末比江戸ノ人始テ製ス 扶竹ハ古ノ製ス 扶竹ヨリ出ル物故ニ扶箱ト号ケリ 今世 将軍家ノ扶箱ハ 漆塗網代 紫黒漆塗 表上ニ葵大紋二ツ 蓋前後各四ツ 左右各三ツ 蓋扉左トセテ 先箱四ツ 二箇二行 日光法親王扶箱同製 紋菊 蓋先箱四ツ 二箇二行 借伸家ハ大臣以下 箱蓋ニ黒塗 是ハ胴紋トセテ箱ノ前後各二ツ 左右各一ツノ大紋ヲ描ク 予先年上巳ノ日 帝参ニ詣テ諸官人ノ参内ヲ見ルニ 上棋家ハ 乗物ニテ参内ス 蓋ニ紋ニ任セタル人 先箱有ル事ヲ 未任大臣モ 乗物ニテ参内ス 蓋ニ紋ニ任セタル人 先箱有ル事ヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41　　ガラス使用

ニクニ任セサル人ハ無笠シ清華以下モ二名ニ任セル人ハ如上納言
以上ハ侍一人或ハ二人履取僕一人ノミ皆歩行シ
親王諸親王ハ乗物ニテ先笠アリ

武家ハ家格ニヨリ先笠有無シ又金紋ヲ
免許ノ家ノミ描ク其紋
蓋又ハ傘ニ描ケリ前ニ述ヘル如シ胴紋ハ更ニ無ク
駕後ノ對挟箱ハ一万石以上以下ニ乗物ニ
笠ノ有ル上ハ必ス笠アリ以下交代籠本ナドハ有ル人多ク
ハ笠ナシ騎馬ノ人ハ後笠ニハ稀シ事ニテ一ツ
井伊掃部頭ハ先笠一ツヲ家ノトシ備前池田家ハ黄紋ヲ描キ金紋ニ
擬シ越前家又津軽氏ハ前笠後笠ヲ用ル
ル長十一地ニ至ル一一一一ハ桐ノ素木先笠後笠ヲ用ル

又家格ニヨリ挟箱蓋上ニ太キ紐ヲ掛ル將軍家親王家ハ紫其他ハ專ラ黒又
陸尺ノ後笠ニ紐ヲ掛ケル
僧侶ノ挟箱ニハ專ラ紐アリ

家号
記サス
偖ニ記シ忘レル挟箱ニハ筆ヲ用ル

又江戸市民ハ筆始回禮ニ出ルニ主人麻上下ヲ代ル天下晃天狩将一人大中
ノ者如此小戸ハ略ス挟箱特ニ黒人ノ穢シ紫ヲ描キ金紋ニ
或ハ先笠後笠ニ俱前木筆ノ物ヲ納ル高提灯ヲ又ニ都ニ葵違ニハ挟箱ヲ用ル今世
其他事不明ス

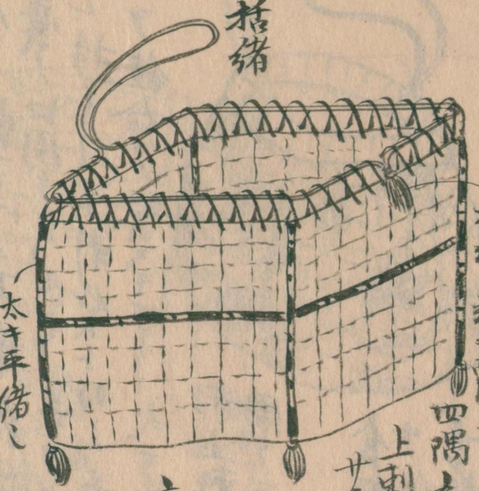
女用挟箱ニハ黒塗ニ紅ニ金ニ描ケリ蓋ヲ
又油單ヲ掛ケル雨後ヲ掛ル前ニモ述ル如シ乗物日覆猩々緋ノ時ハ
挟箱ニ日覆白ラシヤ如キ物ヲ描ケリ
或ハ先笠後笠ニ俱前木筆ノ外白地ヲ付ケ筆ヲ描ケリ

幕府ニテ宗室同主大名等上輩女房ノ挟箱緋ヲ用ヒズ他色ノ
ラシヤニ白地ヲ付ケ紋ヲ描ケリ
高貴ノ御方ニテ御行ニモ對後笠モアリ或ハ
時ハラシヤニテ柿ニテ車ラ中形地紋ヲ白色ノ紐ヲ
色モアリ定紋ハ描カズ

武書ニ昔ハ他行ノ時着替服ヲ挟ニ挟ヲ持ク後ニ
無ケレハ初メ前ニ述ル如ク竹挟ニ其後板挟ニ挟ニツヒニ笠ヲトナル物挟又市民用ニテ
中古盛ニ行ヒ今廃リ吉宗ハ花見ニモ用ヒ今ハ年頭礼ト葬式ノ外不用ヒ
座長ケ六ケ二ニ座長二尺ケ九ケ二ヨリ座長ケ六ケ二ニ至ル者ニ
挟箱ヲ持ル大名ニハ非ス供スル者ナシ諸人今ヲ
在スルニ下部見ハ江戸本町ノ鉄屋六郎右衛門ト云シ我モ人モ見シヲ叔ハ此奴
ヲ用ル者全神国大名ノ通ヒ仮ヲ用ヒ物如此通ル中興ニ今ハ高ヲ賤
キヲモ皆挟箱ヲ持ル如此

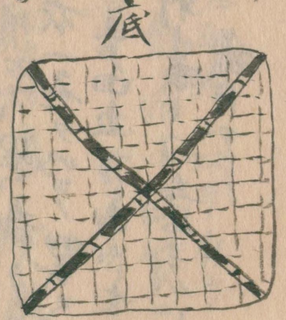
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

上刺嚢　古用ヒ今ハ無シ前ニ云如ク上ニ長頃ヨリ廣キヲ扶竹ト云リ其後扶ト云ル




四隅房二寸計

上刺糸大針ト小針ト一ツ宛ニ一一一一一一如此サスシ刺糸向ノ方一ツ




大小無定絹或ハ布ノ袷嚢シ口ニハ組糸ヲ以テ周リヲカガリ是ニ組緒ヲ貫通シ扶ル全体ハ摸画ノ如ク縦横刺ヌキシ又昔宿衛袋或ハ宿衛物ノ袋ト云ル袋ヲ此上刺袋ト同制ニテ大形ナル帝モ今世柳営泊リ番ノ士ノ夜具ヲ納ルヲ見ルニ俗ニ俵袋ト名ケタレド皮革ヲ用ヒズ又嚢ニ非ズ竹ヲ薄クソキ網代ニ編ミ箱カ extra 如ノ造リ紙ヲ以テ張ル漆墨ヲ以テ塗リ其上ヲ上塗本縛ヲ以テ包其本縛ニ四五ヶ所ノ定紋ヲ一個白リ染ヌキ上葺ハ此ツヾラ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

二ツヤリテ納豆ニ入擔ギ中輩ハ一ツヲ僕一人ニ荷ヒ遣ヒ或ハ木綿包ニ製セズ單ニ藁ノミニ記ス等ヲ朱塗ヲ描ケルアリ

今世京坂小民ノ婦女華野外ナドニ遊ブ時タシナビブクロトモ云ヒ擔ヒ者アリ香袋ノ訛ナルベシ其製絹綿布ノ類ヲ表トシ麻木綿等ヲ裡トシ兩ノ縫目ヲ袷裏ノ口周リニハヤリ糸ヲ用ヒズ異裁ノ縫目ヲ通シ持ツテ上利袋トロシ表一色ヲモツテ製スアリ或ハ小裁ノ集メ裁色ヲ組合ヲ製スアリ大小無定形上狹キニ非ス底モ方形ニテ大サ方四五寸或ハ七八寸

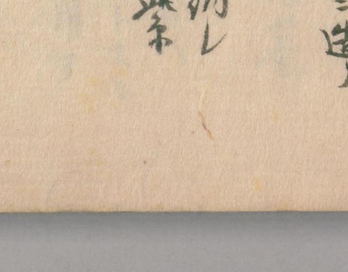
周リニ縫目アリ

食類又ビ紙タバコ手中珠数等ヲ納ル衣嚢ヲ納ルニハ袴ヲ穿キ袷ヲ持ツ京坂小民ハ男ニモ女ニモ如此袋ヲ携ヘ者甚タ稀シ

或ハ此形ヲ用ヒ早道ト名ケテ銭嚢ニアリテ幅守計ニ縫テ帯ニ挟ム物ヲ移シ一幅ヲ以テ製ス故ニ幅四寸餘アリ前後ヲ裏トシ央ニ口アリテ両方ニ雑物ヲ納ル袷裏シ

又江戸小民ノ老嫗ナド此如ク両端ニ口ヲ有テ假裏ト内制又ハ帯ニ挟ム物ヲ納ル物ヲ設ケ帯ノ上背ニ有テ假袋ニ似タルベシ長一尺斗リニ造リ袷ヲ前ニ往ブ

或ハ幅四寸長一尺餘ノ木鉦ノ是ヲ赤腰ニ帯ルト同前ニ袷裏ヲ縫テ物ヲ納シ此木鉦ヲ違ヒ事アル無地紫後ニ手合戦繪巻ニ乗タル姫御前ノ盛ル雑嚢ヲリハ甚小太ノ違ヒニ似タリ



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

今世民間ニテ衣類等携ヘ行ク
ハ柳合利或ハ南部箪笥ノ類ニ
納メ又ハ呂敷ニ包ミ負ヒ或ハ行李及
包ニ携ヘ又ハ車ニ載ス又夜具ハ類ニ江戸民間ニテハ火災多キ故ニヤ
市廛奉公人ノ用ハ平日モ麻布五幅ノ大ナル呂敷ヲ又非官許ノ遊女等モ用ヒ
キヤウ異ニシテ直ニ夜具ヲ呂敷ニ包ミ
吉原ハ自家自席ニ客ヲ迎フル故ニ不用ヒ
大坂新町ノ太夫トイヘル上妓昔ハ夜具ヲ揚屋ニ運ブニ非ス惣テ柳行李南部箪笥等箪
用フル迄ハ麻布ノ呂敷ヲ用フ
長持ハ長櫃ニシ今俗ハ長持トモ
皮箪笥ノ別ニ記ス

又衣類夜具ノミニ非ス諸物ヲモ載ル呂敷ハ
平異ニシテ四ツ目ニシ呂敷ト云ヘハ浴室ニ方形ノ布ヲ敷ヲ足ヲ拭ノ料トスル
物故ニフロシキト呼ブノ外ニ今世平異ノ呂敷ヲ
特ニ湯呂敷トモ
今世ノ呂敷多クハ木綿ニシ或ハ縞或ハ無地或ハ中形等無キニ非ス貴賤ハ
車ヲ麻布ノ呂敷ヲ用フ即チ紺布ニシテ白ニテ井ノ字ヲ形ト云ヒ上ニ坂ニテ井ノ字ヲ
布ト云ヒ酒袋等ニ用フ布ニシ蓋貴物ヲ異服及其他モ品ニ因テ麻布
ヲ用ヒズ無地ハ木綿ニシテ中形ノ染ヲ縞ナドハ貴物ニ用
フルヲ称ヒ

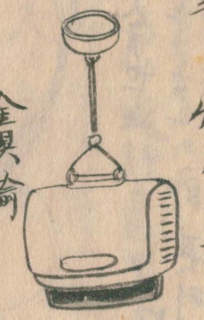
又古雅畳茶器茅ノ高人ハ 碁金木綿ト云フ黄ニ染タル小袋ニ
用ヲヤリ
又唐更紗ヲ用ノ船来ノ葦印布ヲシ是ハ一幅ヲ方形ニ截テ用リ
麻布木綿等ハ大小無ク一幅ヨリ大略五幅ヲ極トス皆ナ縦横
同ク方形ニ

燧嚢 燧今俗火打ト云ヒ假用ス燧嚢ハ古ヨリ有ル日本武尊東征
ノ時 相撲ノ国造ノ薦ニ授キテ睥火ヲ教ヲ焼奉ラントスル
時薦ハ俵ヨリ走ヘラレシ嚢中ニ火打アルヲ以テ向ヒ火ヲ出シ却ヲ
敗ヲ焼中ヨリ後世佩ク燧袋ノ如シ燧嚢ヲ着ルノ始トス又 鎌倉ノ時書礒
藤綱夜ノ仕ヘノ通ヒ燧袋ノ中ノ銭十文ヲ入ルヲ着ルノ始トス又ハヤリヲ落シ松明ノ変ニ
世人ノ知ル所シ近世佩ク仕ヘ又徒ニ用ヒ
今世ノ睥及 胴乱茅ハ燧嚢ヲ変ジ来ル物シ すりノ燧袋ハ黄人ト雖ニ
布或ハ滑皮等ニテ造リ緒締ハ小薬ヲムクレンニ孔ヲ穿テヲ用ヒ
其粗ヲ知ルベシ今ノ嚢物ニハ船来ノ草及綿紬子ヲヤ金銀珠玉ニ
用ヒル物ナレ

武雑記ニ見リ七寸許ノ
円形トカリ裡ヲ縫ヒタルシ

古製種々アリ近年 栗原節信 燧嚢考一書ヲ刊行シ世ニ行ル其書ニ
種々古画ヲ掛ケリ蓋画ノ如リ布及革ヲ
糸ヲ以テ 圓形ニ截テ周リニ
武雑記曰 御前又ハ晴ノ時火打袋ヲ身ニ付ケリ若キ人ハ
アルヒハ四十以後ハ帯業内ヨリ出サヌ可申ト但病
者ナドハ業ヲ人ニ引テ出サヌ内ニ後ニ
○御前ハ足利将軍ノ前ヲ云ヒ諸ノ家内ハ許ヲ諸ノ家内ハ許ヲ
火打袋ニ業ヲ書ニシ今ハ印篭ニ時ノ何ノ比ヨリ始
又今世此形ニ似タル口ニ紐ヲ用ヒザル物ヲ
ダルトカ云ヒ其形ニ画ハ烟草ノ下ニ

今製ノ煙嚢馬皮朱漆ニ而ノ如ク製シ底ノ外ニ煙鉄ヲ造リ付ル物多シ
根付ハ売アケト名ケ弁而弐ハ金扇ニテ造ル烟草
半吹ノ時是ニアケ名ケ再吸ニ備リシ此具旅中用ナレハ
歩行ノ間ニ用ヒテ多ノ中故シ

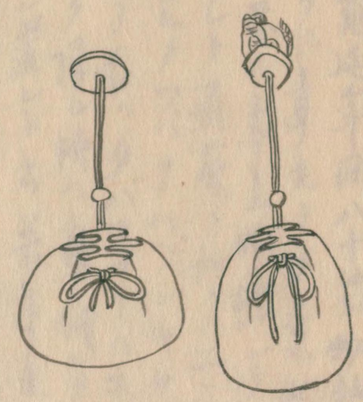


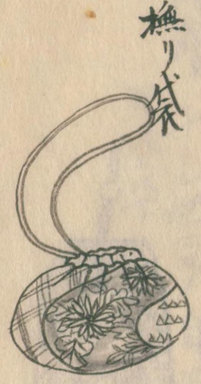

貴烟草入リハ小形ニ製ス此而大ニ誤リ
煙石ト火口ハ嚢中ニ納ル其小形ハ民間筋行用ニテ
共士用ヒハ稀ト又煙鉄ヲ扇ニ付不嚢中ニ納ルアリ
又幅二寸許ノ革ヲ以テ煙而革ヲ自製シ石鉄火口
ヲ納シ帯中スル人モアリ此形ハ士民共ニ用リシ

煙鉄京坂ニハヒウチトテ江戸ニハヒウチナシマトス上州ノ吉井氏ノ製ヲ良
トス
火口木ワタト刻ス蒲穂ヲ以テ製ス里未二種アリ三都ニ煙嚢ニハ用ヒ高級
日用ニ用ヒ江戸常ニハ火口木ワタヲ草幹
ヲ特ニ鉦師火口トヲ日用ニ稀ニ用ヒ草幹ヲ家
煙石ハ京坂ハ泊者ノ名ヲ用ヒ江戸ニハ白石ヲ用ル

## 腰物

キンチヤクト刻ス今俗ハ巾着ノ字ヲ仮用ス元来嚢ヨリ出ル





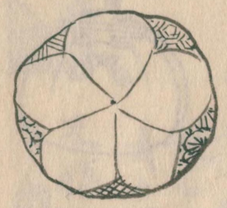
草ヲ専トシ菖蒲ヲ印傳ヲ好トスルニ印傳草ハ
世ニ稀ナル物故ニ餘ノ舶来草ヲ以テ印傳草ニ
模造ラシ其他種々ノ草ヲ用ヒ弐ハ織物又
羅紗ノ類ヲ以テ稀ニ用ヒ舶来時等
印篭ニ代ヘ用ヒ江戸ニテハ男女共ニ上下着用ス

弐ハ女夫巾着ト名ケテ勝ニツ底ニテ一ツニナリ
女児ト童神仏ノ守札ヲ納メ帯ニ下ケル物ハ東ヲ
横造ラシ其形ヲ多クハ俳羅紗ヲ以テ製ス是ハ東ヲ買物ニ非ス又工人ノ手ニ
紗切ノ余ヲ以テ製ス婦女自製シ種々ノ縮緬ギレヲノ
多クハ幅ニツ折ニテ一ツニ銭一ツニ餘物ヲ納ル革シ

是モ婦女ノ自製シ立ツノ縮緬ギレヲ
ヨツテ縫ヒ口周リニ別ギレヲ付ヲ
通ス一段嚢ト口製シ
此二ツハ帯ニ下ケズ懐中スルシ弐ハ女帯ノ
前ニ挟ム

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

神仏等護摩ノ納シ児童ノ帯ニ下ル外
前掛ノ物ナド式ハ此形ナモ用ル



桔梗嚢
底ノ畨

是モ撫リ袋ト同ク婦女子自製ニス形チモ亦撫リ
袋ト同形ナレド唯底ヲ別裁ニスルノミ

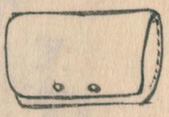
嚢嚢　烟草入シ昔ハタバコイレ魯ヲ帖紙ニ包ミ袂ヘ

又寛延年間八十分羽物語曰昔ハ儀中タバコ入ヲトキテ雪ラナク飯トモ
而リヒ亭主ノ多葉粉盆ニ有ヲ呑シ香炭ヲ
遠呑ズ亭主物語シテタバコ参ラレトスル
参ラレト盃茶ノ如ク二ニ度トハ呑シ其ハ
キセルノツバヲハヅシキセルヲヌグヒ是ニテ
キテ呑ノタバコヨリバホル一プリヲ二フク
置ク帰ル時ハ皇紳ニテヌグヒタバコ多盆ニ入
サン置レトモ若亭主頭役カ親方ナレバ
ズ其ヒヤリレナキヤツコトヲイヘル人モ
盤熬ノ坐敷又親方老人ノ前ニテタバコ
様無作法ノ千万シ昔ハタバコ入取落シ
リンケルシ其ヒノタバコ入セイレツニテ作
ニテ随分高相ナルシ傘ハ金入紙ヨレニテ
時倉　十七地ニテ自慢ケニ出ス
墨塗ハ盆ニ置リノ烟草器シ

以下ノ烟草入皀紙嚢等右ノ巾着ニ比スレハ甚タ小畨ニ図者等ク

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

袂落ニ烟草入　草類錦物羅紗紙製ニ有之
上輩ノ人事ヲ持ち上下ノ一着ヲ時ハ何人ニテモ
持ち

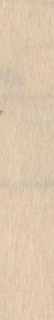


同半月形



同前
此ホカ金具ヲ對鉄ト云　鉄頭或ハ米麥等ノ形ニ造ルヲアリ

同烟管筒　草ハ用ヒズ羅紗錦紋ヲ用ヒ今世ト雖モ緋天鵞絨ヲ流布ト云　普通袷シ緋天ハ學ニス



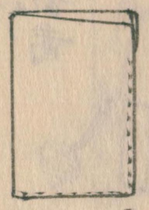
同長筒　長サ二尺餘ニ自製ニ烟管ヲ入レ両ノ如ク結ビ或ハ烟ヲ吸ヒ口ヲ露ニ烟管ニ結ビテ喫スル人アリ

是ハ錦文ヲ用ヒ緒緒ヲ專トシ緒面ヲ出ヌヲ專トス

草ヲ入ルニヤ草ハ用ヒズ

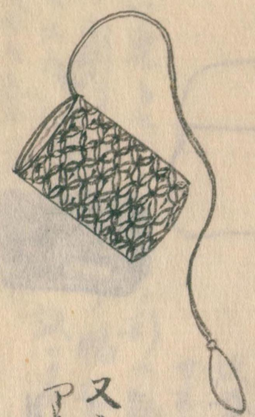
此製天保ノ前往ニ用ヒ近年ハ用ヒス人甚稀シ

前面ノ短筒ハ不易ノ製シ無ニ烟管袋ハ八寸五分嘉永初リ專ハ
懐中スルニハ殿中ト名ケ七寸五分ト云　弐七寸ト云ニ懐中スル二備ノ
故ニ筒ヲ推ヒテ短クス



以形烟草入

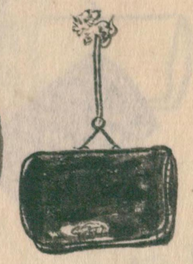
ハヒラス烟草入　羊羹入ト云ニテ製スハ稀シ

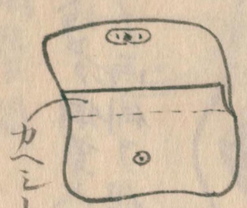


袂落ノ烟草入ヲ持ニ袂ヨリ落失シ易キヲ故ニ緒ノ両側ヲ細緒ニテ數ヶ所ニ一個ニ烟草入一個ニ手巾ヲ納レ緒ヲ脊ニテ両袂ニ納レ片緒ハ片方ノ如ク緒トナシ烟草ノ胴ニ掛ケ緒締ヲ以テ締ムルヲアリ

又水口駅ニ製シ夢ヶ竜製ヲ以テ糸締ニ代ルヲアリ

一ツ提煙草入

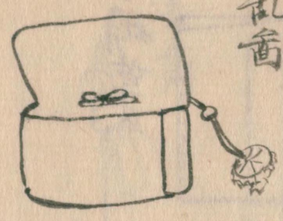




凡テノ煙草入又ヒ一ツ提ケニ胴乱ハ通ヒト称ヘテ右ノ左右ニ一ツヽサゲ

胴乱著煙草入ニモ又ハ銭入レニモ又ハ薬入等ニモ用ヒ又ヒ鉄物羅紗物編物等皆製ス

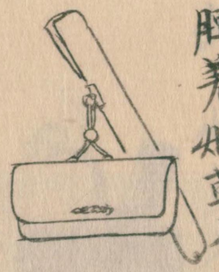
胴乱畨



煙草入ノ三ツ緒根付ヲ帯ニ下ケ烟管ハ前ノ袂落ノ条ニ畨スル外ト内物ヲ用ヒ

其ヲ革以下何ニテモ製ス

蓋ハ表ニ畨スル絵ハセイリトヲヲ左右ニ細物ヲ用ヒテノ袋ノ如クニ製シ形状底ニハ用ヒス先年底布ヒサシト提又腰差ニハ用ヒ又一ツサゲセイリニ非ヲ用ヒ今ハ用ヒス稀ニ有ト雖モ



腰差烟草入

筒ヲ帯ニ挟ム故ニ腰差ト称ス

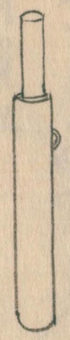
革紙羅ニヤ綟紋並用ス

烟草入トキセル筒トハ別ニ製スヲ専トシ或ハ異物ヲモ用フ

竹筒

左竹ヲ製シテ○植田トナシ薄ク皮ヲ去リ或ハ不去皮種々ノ彫物ヲナシ頭ニ栓アリテ附テ蓋トナル今用ル人稀シ

ポンツク



日前ノ竹或ハ木ヲ穿テ製ス蓋ノ細筒ハ長ケ四寸許

接ギニホントト音スル故ニ名トス

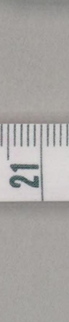
又紙ヲ重ネ張リ或ハ紙捻製ヲ長門筒トス

故ニ名トス又紙張ノ表ニ革ヲ色々ニテ張リ近年是ノサントメ革ヲ専ラ作ル物ハ流布セリ

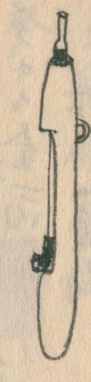
又一栗トハホンツクノ形ニ船来ノ籐ヲ以テ作リ細カニ割リ削リ籐ノ肉ノ幅一分許ナル物ヲ横ニ曲ケ

トキスヘ紐ヲ通シ骨トシ編ム泉州堺ニ一栗ト称スル人紐ヲ通シ故ニ名トス直事ニテ二三銭ヨリ

黄キハ金一両ニテ一栗筒



烟草入モアレ共用フル人稀シ



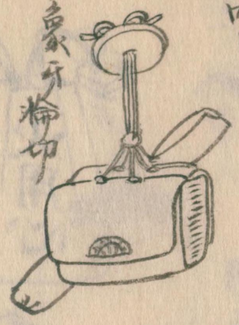
此筒ハ木ヲ穿チテ製ス上端ニ孔アリ烟管ヲサス時ハ内ヨリ吸口ヲ此孔ニ少シ入テ古ルニ従ヒ後ニ下ス

赤小豆草茅ヲ以テ製シテ形前ノ燧袋ノ古製ニ似テ口ニカヽリ糸ヲ用ヒ四形ノ茅ノ周リニヒダヲ取リ孔ヲ貫キテ紐ヲ通ス筒ニ烟草入茅ニ従ヒ用ヒ

提ケ烟草入

羅紗紗 草類 油製紙 織紋錦 等ノ用称シ

羅紗ヲ用ヒシ 草類ト油製紙ヲ専トス 烟草入両面ニ口アリ一方ニハ烟草一方ニハ燧具茅ヲ納メ旅行ノ用トス是ニ織物ヲ用ヒズ



根付 象牙物

同断口

根付 銀細工

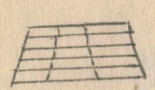
同鎖紐

羅紗ヲ用ヒシ 草類ト専トシ 紙又ハ織物ヲ用ヒズ

鎖銀製ヲ専トス 蓋鎖ニ二種アリ

一豆ノ弁リ

鎖細ヲ用ヒルハ 相撲取ヲ専トシ其他 婦女頭茅下俳優ナドヲ用ヒテアリ

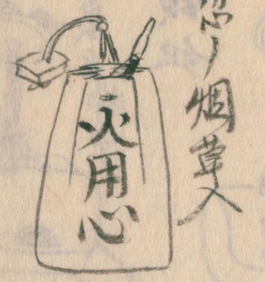


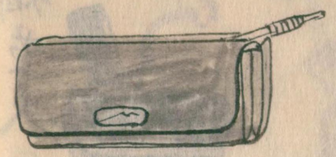
管ノ弁リ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

火用心ノ烟草入



草白紙ニ荏油ヲヒキタル桐油紙ヲ火用心ト書ス是家下ノ烟草入トス国民旅中等ニ用ル

形扁紙嚢ニ似テ烟草入レ蓋二嚢ヲ合セ造リ蓋ニ一口ニ烟吸ヲ納レ無蓋一口ニ雁首ノ如ク烟管ノ羅宇ヲ納ル是駕籠舁雲助夫ノ所用ニテ懐中ニ入レ

黒草類黒油製紙ヲ以テ製ル其他ハ用ヒズ先年ハ是ニ刀豆形ノキセルヲ用ヒタリ近年刀豆形廃レ又此タバコ入モ用ヒル人殆ンド稀シ

トンビツ烟草入

琉球製ニシテ是ハ正四ツ角ニシテ老人等好テ持ツ

桐木ヲ用テ烟草入トシ餘木ヲ其蓋トス山椒等自製ニテ往々持ツ蓋角ニ槌目シ

桐及他木製ノ表ノ鞣皮ヲ張リタルモアリ

毛皮ノ烟草入虎又ハ熊又ハ鹿皮モアリ

毛ヲ刈テ製スベシ今世用ル人甚ダ稀シ

凡二百年前六方丹前ナドヲ着タル武士ノ供スル奴僕ノ袋ヲ提ゲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

煙草入名物ハ大坂淀屋橋ハ馬皮製ノ事ト
雁ハ稀シ羅紗織物ノ類更ニ無シ唯久々堪ヘテ
行用ニ宜シ袂落ニハ用ヒズ提煙草入ノ事ト
根付志明ケ革ノ事トシ金具ハ鉄真鍮ニテ製ス
又腰尾モアリ何煙草入ニモ具ヘ馬皮ニテ紐ヲ革ノ用ノ脇ザシ
提ケ尼ニ賊夫ノ折用シ
天保ノ末江戸ニテ此一種ノ壺ノ店ニテ名物煙草入称脇ノ事ト

勢州稲木村壺屋煙草入ハ厚紙ニ油ヲ引テ製シ外ヲ紙ニ油ヲ引テ
紙製諸事ニテ是ノ名物ニテ今翁煙草入袂落提腰尾ニアリ 就中提ケバニ入ノ
尾ヲ製シ尼ハ黒ノ革ニテ其底ハ黒皮ノ都ノ如ク手ニ則ル時ハ光澤
ヤヽ有テ左右ニ稲木トアリ

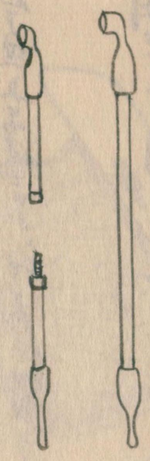
金具真鍮打出シ中ニ壺形ニヤヽ字左右ニ稲木トアリ

江戸四日市町因竹屋煙草入是亦荏油製紙煙草入ニシテ壹匁ヨリハ便貴ク上製ニ
羊羹以形便
又近年大鷹紙ヲ油製シテ是亦煙草入ニ用ヒ其膚滑カナラズ金ノ小殻ヲ天保中ヨリ
流布セリ大タカ七ツ壹匁麝香葛此形ハ小形ノ用
又諸所ニテ摸造スルモノ

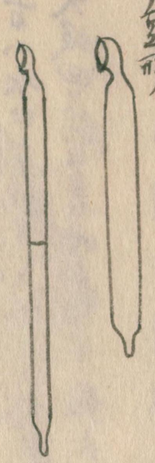
女用煙草入ハ惣テ二都下ニ男用ヨリハ小形ヲ用ヒ袋底
ヲ用ヒ雁皮筒ハ長筒ヲ專ラトス
京坂ノ婦女ハ中継キセルヲ專用スル故ニ袋
用ノ紙莫ハ用ルヲ稀ニ錦紙ヲ數ヲ專トス
又右ノ短筒ニ煙草入ヲ製ス中四用ノ

江戸ヲ先年ハ上等ハ上等ト日稱セリシガ廿年来里サントメ草
或ハ一葉ノポン筒ヲ用ヒリ細ク造リ煙
ニテ小形ニ造リ腰差形トスル蓋四子ハ背ノ腰ニ差ス女子ハ前ニ差シ
煙仲入ヲモ帯ノ間ニ挟ム

煙管　キセルト訓ス　キセルハ唐語ニシテ今俗幾世苗等ノ假名ヲ用ヲアリ



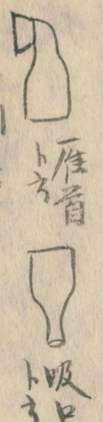
其形種々大小長短全體ノ形定リ隆限ナシ　大略首尾ヲ金屬ニテ造リ小竿ニ両端ニ挟ミテヲ普通ナリ　或ハ長キセル女用等ニハ小竿ヲ以テ中ニ継ク



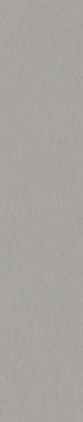
羅宇形

相撲取ナド特ニ太キヲ持ヲアリ

形刀豆ノ如キヲ故ニ名トス　真鍮ニ膚ト模様ヲ描ク管ノ所ヲ〇形ニ先年医師等持ヲ今ハ廃セリ



全ク金属ニテ造リ小管ヲ用ヒサルアリ是ヲ延キセルトス　或ハ中ニテ継ヲアリ



雁首トス

吸口トス

中間ノ管ヲラウトス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

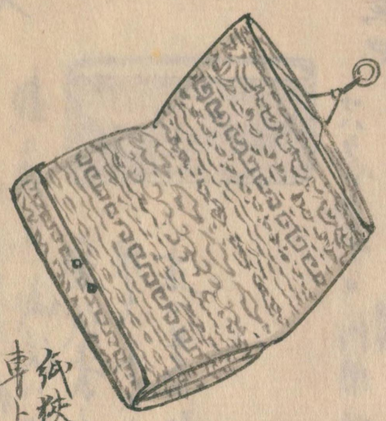
ガラス使用

煙管ニ製スル所金ハ惣テ用ヒベキ者皆銀ニテ造ル普通
真鍮ノ事トシ銅鉄ヲ未用ヒ
又焼付ケ或ハ七度焼ト号テ錫ヲ以テ
メルモノリ
或ハ横節ヲトキ或ハ深彫片切彫色絵ノ高彫象眼七宝流シ
ナド
昔ハ水口三ツ製ヒ今ハ大津ニテ製スルヲ
大坂四ツ作ルヲ名物ト十倍ナリ

今世ニ都内ニテ製スル真トシテ昔ハ
張ト云真鍮ノ粗製ヲ下ストヲ専用トス
用ヒス又近年奥ノ金偏ヨリ多リ
今世ト変ニテ和ト製ヲ貴ト用ヒ

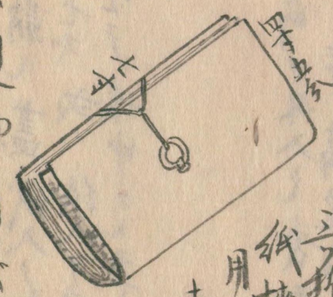
煙管ニ用ル小管 菊雀山茶ヲ彫ル
ヲ用ヒ是亦要請ル

皐紙嚢 常ニ畳ニテ二都ニ紙入ト云



紙挟ニハ前金物ヲ
事トス

二番ニ前後館ヲ所ニ
金子嚢小摺枝館用書類ヲ納シ
紙挟ニハ前ノ如シ



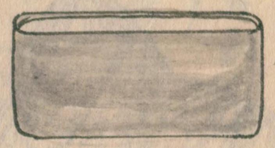
二折ノ表裡無地ト雁ニ専ラ表羅
紗次ニ天鵞絨或ハ草類其他種々
錦紋ヲ縦ニ用ヒ裡紙ヲ錦ノ類シ
近世ハ倭ニクスニタル物トテノ地紋色
近ク濃色ノ物ヲ用ヒ或ハ斜章色
菊無地ハ丈倍

二折左ハ二折シ左面ノ物ヲ表ハ紙
紙挟ヲ迫年トニテ二折ヲ
用ヒ人ヨリ此紙挟ヲ流布ス
表裡大略日前

紙挟ヲ用ヒズ紐ヲ以ノ輪ヲ作タルヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

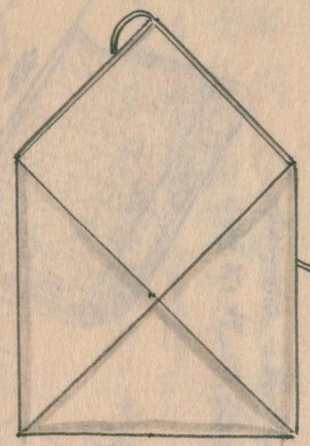
外入



ソトイレハ表里弐ハ綿ニ天鵞ヲ専トシ羅紗テレンプ其他種々又草類ヲ用ユ紙仗ハ縮トス裡ハ日前ニ二ツ折紙入ヲ是ニ納ル即チ鼻紙裏ノ靭シ蓋紙入ノミヲ拵テ不用ノ人多ク稀ニ用ユル女ストセズ或ハ紙入ヲ用ヒズ鼻紙其他諸品ヲ直ニ是ニ納レテ懐中スルナリ

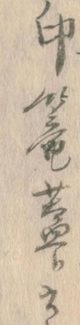
日蓋口

ソハリログチニ所用日前ノ外入シ表天鵞絨羅紗又草類ハ稀ニテ裡ハ琉珀縅ニテ備ル地ハ丈倍革ヲ専トス



因ニ記ス戸女童革長唄又常盤津富本清元新内義太夫革ハ多ク古ニ倣ヒ裏ニ迫ヲ着其院本ヲ誌ス嵐毛木綿草ノ燕口ニ納ル蓋裏ハ折ノ生仗常盤津ハ角木仇革ヲ白ク漆又キ是ハ手踊座ノ革ニテ製ニテ黄ク

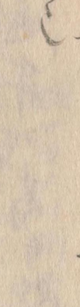
世事談曰 鳥紙寛永ノ比ヨリ普ク帖紙ヲ以テ
反故ノ葉或ハ耳絓石筆ヤウノ物ヲ納メ今ノ
ノ遺ルシ今ハ鳥紙モ昔ハ懐紙ト
鳥紙ヲ綴ヲ書メリシ故ノ名シ
武雑記曰畳紙ノ鳥紙畳紙ヒシ古ハ
カツバカリ常ニ持ニ其内射手ノ畳紙トテ
汪鳥紙ノタヽミ様杉原ヲ一枚横ニ二ツニ折リ
夫ヲ竪ニ三ツニ折又夫ヲ竪ニ二ツニ折レシ是常ノ
畳紙シ是ヲ懐中シテ鳥ヲカケ故鳥紙ヒ
キシ其外常ノ緒用ニツカヒシ歌ナドヨコニクル片ニ
此帖紙ニ書付ル是ヲ詠物トキシ今時ハ鳥
紙トテ俗ヲ小クスキ紙ヲ古ハ今ノ鳥紙ヲ物
ナシ常ニ畳紙ヲ用ヒシ射手ノ帖紙ハ
先ノ竪ヲ四ツニ折リ後横ニ二ツニ折シ
耳ヲ裁リ口ヲシ大略狭物ノヤウナル



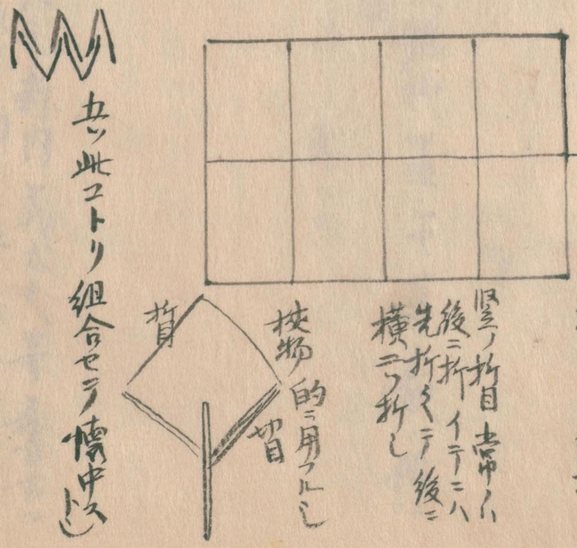
畳紙ハ是



世話ナルベシ今世ノ帖紙



先ヲ左右ヨリ折ヲ上ニシ上下ハ
昔ニ折ルヽ




扨此コトリ組合セテ懐中ス

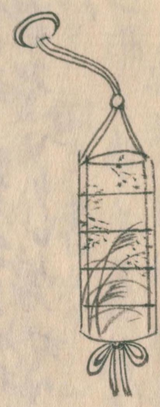
印籠 世事談曰 印籠ハ元来印判印肉ヲ納ル具シ今薬
ヲ入レシ薬ヲ嗜ム物ヲ薬籠トス印籠ノ一重ナル物シ
蓋ヲ中ニテ合セ風ノ入ラヌヤウニシタルシ今ハ薬籠ト云
此薬籠ヨリ転ル事シ今ハ薬籠印籠ヲ
兼ヌル事トス今世ノ人ハ多ク印籠ヲ用ヒ
印籠ヲ納ル人ヘ稀ニテ薬盒ヲ納ムル
袴ヲ着ス者ハ多ク印籠ヲ提ケ着用
着服ノ類ニテモアラズ提テ宮廷ニモアラ
トスルシ依テ印籠ヲ製ル如ス納メズヘカラ
ズシ

薬籠ヤリロウトモヤロウトモ
都テ印籠薬盒ナシ

又医者ハ病家ニ携ヘ往ル薬種数十品ヲ納メル重子
合或ハ引出シ箱ノ類ヲ今ハ薬箱トスヘシ
ヤリロウ或ハ薬箱トモ



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用



黒地ニ金蒔繪或ハ梨子地ニマキエ或ハ螺鈿
ナンド蒔種ヲアリ
此ノトキ形ヲ

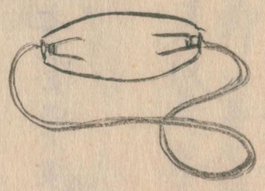
近年ハ高キ物ヲ好マズ是等ノ如シ

近年妙此ヲシテ用ノ是所謂昔ノ楽龍
ナリ
緒或ハ庵ニ待ト式根ノ折ニ待ブ

胸守

古ハ錦等ヲ以テ製ス婦女專ラ掛ク神佛守護ノ
具等ヲ納ノ衣服ノ上ニ緒ノ首ニ掛ケ守嚢ノ
胸ニ当ル故ニ名トス
七ツ番取人ヲ歌合ノ遊女ノ持要等是ヲ掛ク前
集歌ノ条ニアリ見ルベシ
今世婦女用ヲハ稀ニテ兵士ノ
役掛ヲ中民以上男女ハ用ヒ婦女ハ
小民ト雖モ用ヒ其ノ製ハ
腹ノ上ニカケズ虚式ハ腹掛ノ表ニ掛ケ
其ノ上ニ衣服ヲ着ス緒ノ右脇ニ掛
ル時ハ守嚢左脇ニ緒ヲ左右ニ繋ヲ
ル時ハ守嚢左脇ニ緒ヲ右ニ繋ヲ又
前ニ縦ニ左右ニ繋ヲ
ヲ二ツ折ニシテ中着ノ口如ク
ス

守嚢



脇守

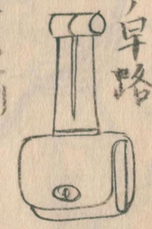
四ノ処ニ守札ヲ納シ
緒ヲ貫テ押ヘタリ

者ハ右脇ニ嚢アリ上面ハセイリ烟草入ノ形ニ似
黒天鵞絨ノ筒嚢ヲ用ヒ下面ハ古銭ニ似テ二ツ折
ニシテ中着ノ口如ク

近年掛守用ル人アレド先年ノ如クニハ
アラズ嘉永初比ヨリ脇守トテ左脇ニ巻キ
置ノ物ヲ専トス是ハ赤男子ノミシ縮緬ノ細
キ筒ヲ製シクルアリ或ハ銀製ニテ種々ノ
形ヲ製シ正アリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

銭嚢 俗ニ銭入レ或ハハヤミチトモ



印篭ノ早路



草製シ上ニ紙ノ張ヌキテ下面ノ形ヲ製シ供皮ニテ色ヲ



此内ニ金銀ヲ納ルナリ

金具ハ真鍮ニテ是モ本下面ノ如ク製ス



此如ク中央ニ穴アリテ受ケ金具ニ



此形ヲ造リ穴ニ入ヘテ捻ル

雑服ノ条流行シ古風ヲ失ヒ中ニ草印籠ノ銭入ヲ入ル即今世用ル人稀シ



七宝形組糸製或ハ縫物ヲ以テ製ス

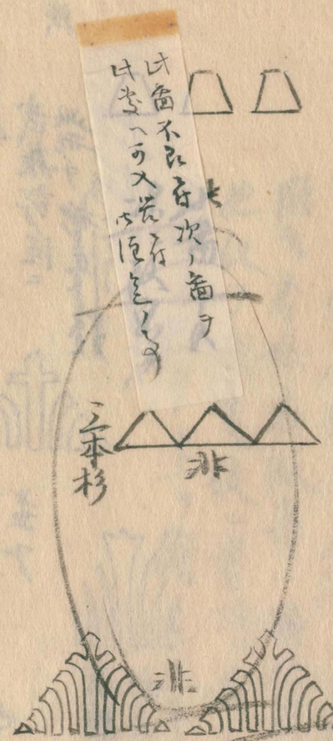


羅紗フリンス雲木綿等ニテ製ス帯ニ挟ム



懐中ニアリ

菖蒲草 世事談曰城州八幡山ノ麓大谷ニテ湧ル神功皇后ノ霊水ヲ征シ玉フ時鐙ノ鬲ニ在テ此ノ草ヲ以テ湧ル是ヲ高麗勝武ト号ク後義家東征ノ時岩清水ニ祈ル高麗勝武ト又秀吉ノ朝鮮征伐ノ時石清水ニ詣テ祈ル則チ大谷ヨリ奉ル故ニ名ク勝武菖蒲ト書ハ仲基ノ薗ニ是ヲ湧ル故ニ名ク勝武菖蒲通音故ニ



小櫻草

慶皮ヲ以テ製ス色黒緑シ今世ニ専ラ流布ス

地黒緑紋白シ其紋是葦ヲ専トス

本来ハ甲冑ニ用ル近世ニ至リ刀柄ヲ巻或ハ下ケ緒ニ専ラ用ル

今世諸所ニテ模造ス鼻紙入烟草入ニ専ラ製ス

又木綿ニ是ヲ模染ニテ扇帯ヌ女太夫ト云者帯ニ専ラ又比日下士ノ如ク其他種々ニ用ル

銭嚢 俗ニ銭入レ 或ハヤミチトモ

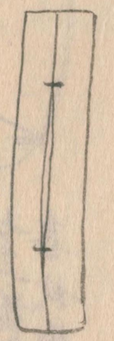
草製シ上ニ紙ノ張ヌキテ下面ノ形ヲ製シ供皮ニテ包ム 此内ニ金銀ヲ納ムルナリ

金具ハ真鍮ニテ是モ下面ノ如リ製ス

此如リ中央ニ穴アリテ紐ヲ受ケ金具ニ此形ヲ造リ穴ニ入レテ捻ル

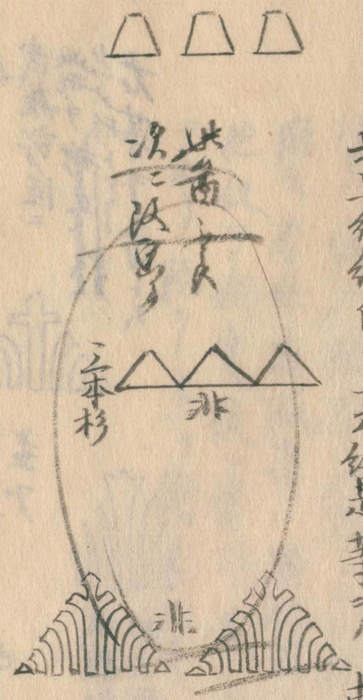
雑服ノ条流行ト古風ヲ失ヒ中ニ菖蒲印繻子ノ銭入ヲ見ニテ古風ヲ存シ即今世用フル人稀シ

七宝形組糸製或ハ錦物ヲ以テ製ス 紐アリ



羅紗アリリン雲ノ木綿ノ革ニテ製ス 幅二寸許上下ヲ折テ袋トシ中ニ口アリ

菖蒲草 世事談曰城州八幡山ノ麓大谷ニテ源九郎義家東征ノ時鏡ノ滝ニ於テ此草ヲ以テ髪ヲ洗ヒ又秀吉公朝鮮征伐ノ時名清水ニ詣テ戦利ヲ祈ル高麗勝武ヲ献ストキ又菖蒲ト書ハ仲麦ノ蒲ニ是ヲ洗ヒ通音故シテ




鹿皮ヲ染テ製ス色黒緑シ今世ノ流布ナリ 即菖蒲草色黒緑紋白シ其紋是葦ヲ専トス

小櫻草

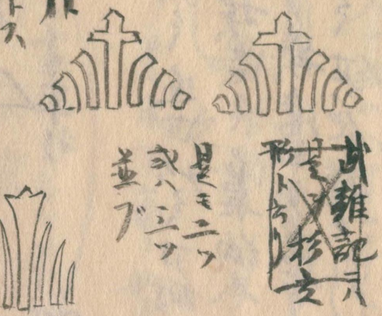
本来ハ甲冑ニ用ヒ近世ニ至リ刀柄ヲ巻或ハ下ケ緒ニ専ラ用ヒ今世諸所ニテ摸造シ皐紙ニ烟草入巾着等ニ製ス 又木綿ニ是ヲ摸染ニテ流布ス女太夫ト云者帯ニ専ラ又比目下士ノ如ルサシニ用ヒ其他種々所用ス

ノメハ
皆目次

△△△ 三本杉

△△△ 二ツモ交ル

武雑記ノ注ニ帯形ヲノノ形トアリ 右葦ヲ書トス




諸草ノ名ハ名物考ノ山岡作下ノ書ニ詳ナリ

草ノ草ノ名ハ名物考 伊藤信徳著
漫古堂隷 永井作
草木写生図説 栗本丹洲著
草花絵前考 池田氏作
草木染製伝記 栃窓菜作

正平草 正平源ト云 世事談曰 肥後国八代十景ノ閼橋ノ辺ニテ源ニ天平草トテ甲冑ノ威ニ用ル源草アリ 此坂ノ中ニ不動ノ像ハ幡ノ二字或ハ梵字等アリ 天平十二年八月ト記セリ 右神仏ノ形アルヲ故ニ土人弊ヲ除ル 征西将軍懐良親王ハ代高田ニ在シ時別版ヲ賜テメ高賢ヲ許セシヨリ 所免草トさり 版南朝ノ正平六年六月一日トアル故ニ正平草ト云 此草ヲ今世諸所ニテ又正平源ヲ摸造シ甲冑ノ威ニ用ユ 是ヲ紙入烟草入等ニスル物ノ未見ル処ナリ 今世衣服帯ニ無地源ノ上ニ後ノ他紋ヲ我宅紋ニ書改ル帯ノ時ハ白粉ヲ以テ上ヲ縮スル正平紋トス 蓋小紋ハ新多シ

印傳草　印度草ノ訛シ今世印傳草ト稱ヘ真物ノ極テ稀トシ得難ケヘ唯他草ヲ再製シテ模造スルノミ

金唐草　キニカラカハ舶来地金箔押ノ紙ヲ切リ銀ノ骨ヲ好色ノ紙ニ用ユル人稀ニ舶来紅草ノ如リハ廃セズ

紅草　舶来紅色ノ草シ是亦天保比昌ヲ烟物ニ應ジ用ユル其後更ニ廃シテ用ユル人稀ニ

サントメ草　黒ヲ專トス烟草紙入等ニ用ユ弘化以来特ニ流布トス多能ニ用ユル人多シ舶来ナリ今モ貴ユ其色今ハ非ズ

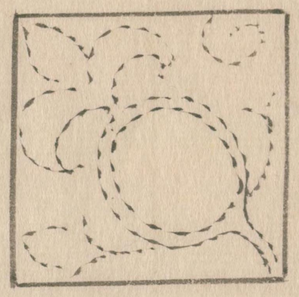
赤小豆草　アワキ名ノ草ニ是ヲ真物ハ稀ナ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

縫取り更紗　更紗ハ華印布ノ俗字ナシサヲサト訓ス近年
往々新ニ華印布ヲ爆染ニシテ古物ニ模スルアリ其爆染ニテ時代ヲケ
タル物ノ裡ニ粗麻布ヲ当テ刺縫ニスルニ色古ニアリテ五ヲ一画ニ
自ラ小皺ヨル故ニ甚タ雅シクシテ紙入烟草入ニ製スレハ流布ノ
即チ嘉永元年比ヨリニテ始テ製ス此縫取華印布ヲ刺ス又

華印布紋種々アレ共其製ハ上ノ如キ刺縫ニスル物アリ
地紋ニハ下ノ如ク刺縫ニスル物アリ
地紋ニ裏ニテ刺ヌキシ刺糸モ古色ニスルシ



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

ロ
31
15

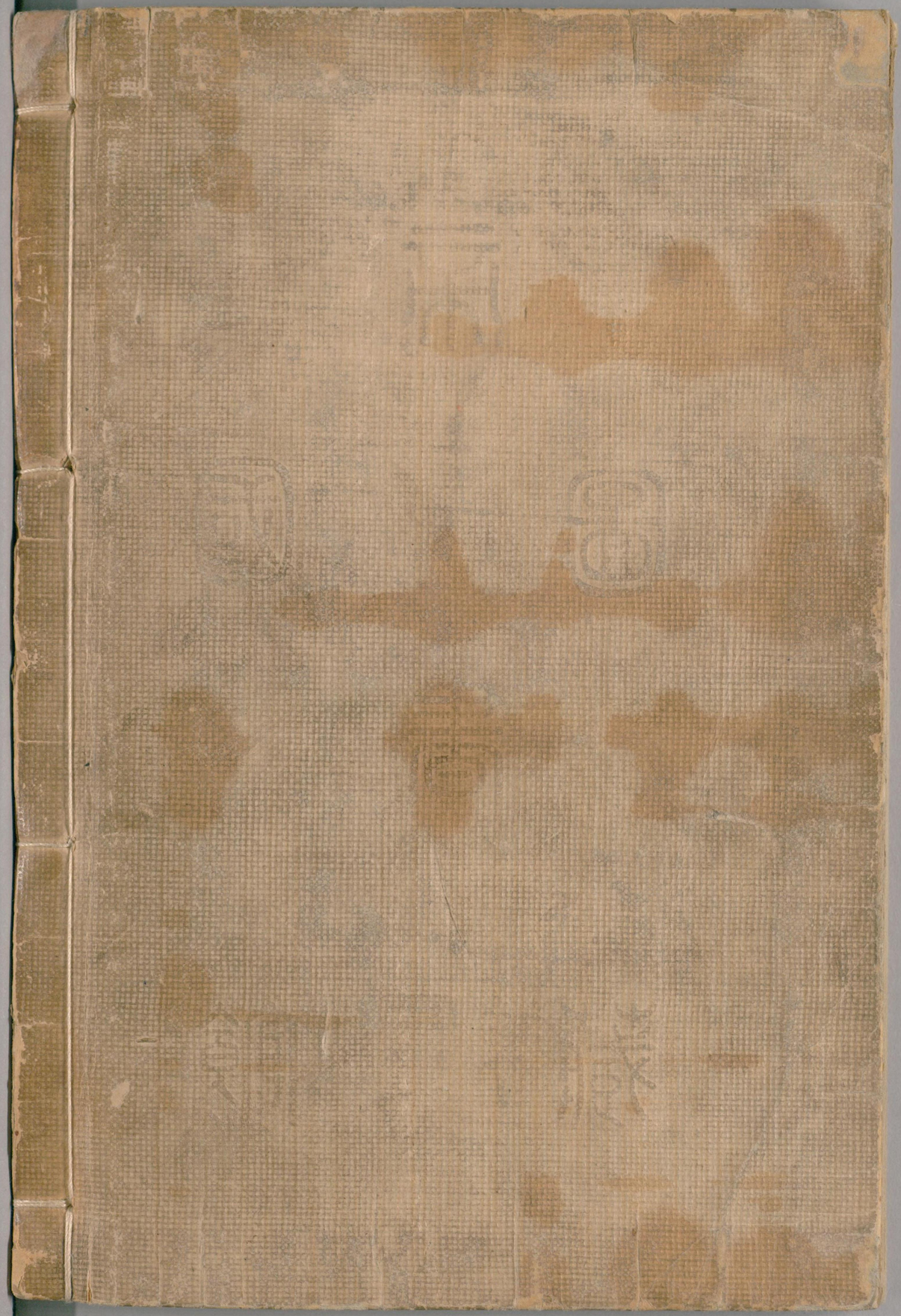
時繪　描金ノコト世事談曰　梨地時繪ハ
アレ共其起ル所ヲ知ズ上古ノ梨地ハ
ミナ素ラ蒔山殿ノ頃ヨリノ時繪勝レタリトス
ト称ス斯時分ノ器物ヲ時代物
其家トス云々
高倉院ノ時代タ〻〻
金ト云モノニテ金ノ位ア
幸阿弥　栗本ノ両家　奈良鈴木　菱田　桂本　圓阿弥等ヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

30
15

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用